

レ ビ 記

第一章

主はモーセを呼び、会見の幕屋からこれに告げて言われた、三イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたのうちだれでも家畜の供え物を主にささげるときは、牛または羊を供え物としてささげなければならぬ。』

もしその供え物が牛の燔祭であるならば、雄牛の全きものをささげなければならぬ。会見の幕屋の入口で、主の前に受け入れられるように、これをささげなければならぬ。彼はその燔祭の獣の頭に手を置かなければならぬ。そうすれば受け入れられて、彼のためにあがないとなるであろう。彼は主の前でその子牛をほふり、アロンの子なる祭司たちは、その血を携えてきて、会見の幕屋の入口にある祭壇の周囲に、その血を注ぎかけなければならぬ。彼はまたその燔祭の獣の皮をはぎ、節々に切り分けたなければならぬ。祭司アロンの子たちは祭壇の上に火を置き、その火の上にたきぎを並べ、アロンの子なる祭司たちはその切り分けたものを、頭および脂肪と共に、祭壇の上にある火の上のたきぎの上に並べなければならぬ。九その内臓と足とは水で洗わなければならぬ。こうして祭司はそのすべてを祭壇の上

で焼いて燔祭としなければならぬ。これは火祭であつて、主にささげる香ばしいかおりである。

もしその燔祭の供え物が群れの羊または、やぎであるならば、雄の全きものをささげなければならぬ。

彼は祭壇の北側で、主の前にこれをほふり、アロンの子なる祭司たちは、その血を祭壇の周囲に注ぎかけなければならぬ。彼はまたこれを節々に切り分かち、祭司はこれを頭および脂肪と共に、祭壇の上にある火の上のたきぎの上に並べなければならぬ。三その内臓と足とは水で洗わなければならぬ。こうして祭司はそのすべてを祭壇の上で焼いて燔祭としなければならぬ。これは火祭であつて、主にささげる香ばしいかおりである。

もし主にささげる供え物が、鳥の燔祭であるならば、山ばと、または家ばとのひなを、その供え物としてささげなければならぬ。祭司はこれを祭壇に携えて行き、その首を摘み破り、祭壇の上で焼かなければならぬ。その血は絞り出して祭壇の側面に塗らなければならぬ。またその餌袋は羽と共に除いて、祭壇の東の方にある灰捨て場に捨てなければならぬ。これは、その翼を握って裂かなければならぬ。ただし引き離してはならない。祭司はこれを祭壇の上で、火の上のたきぎの上で燔祭として焼かなければならぬ。これは火祭であつて、主にささげる香ばしいかおりである。

第二章

一人が素祭の供え物を主にささげると

きは、その供え物は麦粉でなければならぬ。その上に油を注ぎ、またその上に乳香を添え、これをアロンの子なる祭司たちのものに携えて行かなければならぬ。祭司はその麦粉とその油の一握りを乳香の全部と共に取り、これを記念の分として、祭壇の上で焼かなければならない。これは火祭であつて、主にささげる香ばしいかおりである。素祭の残りはアロンとその子らのものになる。これは主の火祭のいと聖なる物である。

四 あなたが、もし天火で焼いたものを素祭としてささげるならば、それは麦粉に油を混ぜて作った種入れぬ菓子、または油を塗った種入れぬ煎餅でなければならぬ。五 あなたの供え物が、もし、平鍋で焼いた素祭であるならば、それは麦粉に油を混ぜて作った種入れぬものでなければならぬ。六 あなたはそれを細かく砕き、その上に油を注がなければならぬ。これは素祭である。七 あなたの供え物が、もし深鍋で煮た素祭であるならば、麦粉に油を混ぜて作らなければならぬ。八 あなたはこれらの物で作った素祭を、主に携えて行かなければならぬ。九 それを祭司に渡すならば、祭司はそれを祭壇に携えて行き、その素祭のうちから記念の分を取って、祭壇の上で焼かなければならぬ。これは火祭であつて、主にささげる香ばしいかおりである。素祭の残りはアロンとその子らのものになる。これは、主の火祭のいと聖なる物である。

二 あなたがたが主にささげる素祭は、すべて種を入れて作ってはならない。パン種も蜜も、すべて主にささげる火祭として焼いてはならないからである。三 ただし、初穂の供え物としては、これらを主にささげることができる。しかし香ばしいかおりとして祭壇にささげてはならない。四 あなたの素祭の供え物は、すべて塩をもつて味をつけなければならぬ。あなたの素祭に、あなたの神の契約の塩を欠いてはならない。すべて、あなたの供え物は、塩を添えてささげなければならぬ。

五 もしあなたが初穂の素祭を主にささげるならば、火で穂を焼いたもの、新穀の砕いたものを、あなたの初穂の素祭としてささげなければならぬ。六 あなたはそれに油を加え、その上に乳香を置かなければならない。これは素祭である。七 祭司は、その砕いた物およびその油のうちから記念の分を取って、乳香の全部と共に焼かなければならない。これは主にささげる火祭である。

第三章 一 もし彼の供え物が酬恩祭の犠牲であつて、牛をささげるのであれば、雌雄いづれであつても、全きものを主の前にささげなければならぬ。二 彼は

はその供え物の頭に手を置き、会見の幕屋の入口で、これをほふらなければならぬ。そしてアロンの子なる祭司たちは、その血を祭壇の周圍に注ぎかけなければならぬ。三 彼はまたその酬恩祭の犠牲のうちから火祭を主にささげなければならぬ。すなわち内臓をおおう脂肪

と、内臓の上のすべての脂肪、二つの腎臓とその上の腰のあたりにある脂肪、ならびに腎臓と共にとられる肝臓の上の小葉である。五そしてアロンの子たちは祭壇の上で、火の上のたきぎの上に置いた燔祭の上で、これを焼かなければならない。これは火祭であつて、主にささげる香ばしいかおりである。

六もし彼の供え物が主にささげる酬恩祭の犠牲で、それが羊であるならば、雌雄いずれであつても、全きものをささげなければならぬ。七もし小羊を供え物としてささげるならば、それを主の前に連れてきて、八その供え物の頭に手を置き、それを会見の幕屋の前で、ほふらなければならぬ。そしてアロンの子たちはその血を祭壇の周囲に注ぎかけなければならぬ。九彼はその酬恩祭の犠牲のうちから、火祭を主にささげなければならぬ。十すなわちその脂肪、背骨に接して切り取る脂尾の全部、内臓をおおう脂肪と内臓の上のすべての脂肪、二つの腎臓とその上の腰のあたりにある脂肪、ならびに腎臓と共に取られる肝臓の上の小葉である。二祭司はこれを祭壇の上で焼かなければならない。これは火祭であつて、主にささげる食物である。

三もし彼の供え物が、やぎであるならば、それを主の前に連れてきて、三その頭に手を置き、それを会見の幕屋の前で、ほふらなければならぬ。そしてアロンの子たちは、その血を祭壇の周囲に注ぎかけなければならぬ。

一四彼はまたそのうちから供え物を取り、火祭として主にささげなければならぬ。すなわち内臓をおおう脂肪と内臓の上のすべての脂肪、二五二つの腎臓とその上の腰のあたりにある脂肪、ならびに腎臓と共に取られる肝臓の上の小葉である。二六祭司はこれを祭壇の上で焼かなければならない。これは火祭としてささげる食物であつて、香ばしいかおりである。脂肪はみな主に帰すべきものである。二七あなたがたは脂肪と血とをいっさい食べてはならない。これはあなたがたが、すべてその住む所で代々守るべき永久の定めである。

第四章 一主はまたモーセに言われた、二イスラエルの人々に言いなさい、『もし人があやまって罪を犯し、主のいましめにそむいて、してはならないことのひとつをした時は次のようにしなければならぬ。三すなわち、油注がれた祭司が罪を犯して、とがを民に及ぼすならば、彼はその犯した罪のために雄の全き子牛を罪祭として主にささげなければならぬ。四その子牛を会見の幕屋の入口に連れてきて主の前に至り、その子牛の頭に手を置き、その子牛を主の前で、ほふらなければならぬ。五油注がれた祭司は、その子牛の血を取って、それを会見の幕屋に携え入り、六そして祭司は指をその血に浸して、聖所の垂幕の前で主の前にその血を七たび注がなければならぬ。七祭司はまたその血を取り、主の前で会見の幕屋の中にある香ばしい薫香の祭壇の角に、そ

れを塗らなければならぬ。その子牛の血の残りはことごとく会見の幕屋の入口にある燔祭の祭壇のもとに注がなければならぬ。八またその罪祭の子牛から、すべての脂肪を取らなければならぬ。すなわち内臓をおおう脂肪と内臓の上のすべての脂肪、九二つの腎臓とその上の腰のあたりにある脂肪、ならびに腎臓と共に取られる肝臓の上の小葉である。一〇これを取るには酬恩祭の犠牲の雄牛から取るのと同じようにしなければならぬ。そして祭司はそれを燔祭の祭壇の上で焼かなければならぬ。二その子牛の皮とそのすべての肉、およびその頭と足と内臓と汚物など、三すべてその子牛の残りは、これを宿営の外、清い場所なる灰捨て場に携え出し、火をもつてこれをたきぎの上で焼き捨てなければならぬ。すなわちこれは灰捨て場で焼き捨てらるべきである。三もしイスラエルの全会衆があやまちを犯し、そのことが会衆の目に隠れていても、主のいましめにそむいて、してはならないことの一つをなして、とがを得たならば、四その犯した罪が現れた時、会衆は雄の子牛を罪祭としてささげなければならぬ。すなわちそれを会見の幕屋の前に連れてきて、一五会衆の長老たちは、主の前でその子牛の頭に手を置き、その子牛を主の前で、ほふらなければならぬ。一六そして、油注がれた祭司は、その子牛の血を会見の幕屋に携え入り、一七祭司は指をその血に浸し、垂幕の前で主の前に七たび注がなければならぬ。

一八またその血を取って、会見の幕屋の中の主の前にある祭壇の角に、それを塗らなければならぬ。その血の残りはことごとく会見の幕屋の入口にある燔祭の祭壇のもとに注がなければならぬ。一九またそのすべての脂肪を取って祭壇の上で焼かなければならぬ。二〇すなわち祭司は罪祭の雄牛にしたように、この雄牛にも、しなければならぬ。こうして、祭司が彼らのためにあがないをするならば、彼らはゆるされるであらう。二一そして、彼はその雄牛を宿営の外に携え出し、はじめの雄牛を焼き捨てたように、これを焼き捨てなければならぬ。これは会衆の罪祭である。

三またつかさたる者が罪を犯し、あやまって、その神主のいましめにそむき、してはならないことの一つをして、とがを得、三もしその犯した罪を知るようになったときは、供え物として雄やぎの全きものを連れてきて、二そのやぎの頭に手を置き、燔祭をほふる場所で、主の前にこれをほふらなければならぬ。これは罪祭である。三祭司は指でその罪祭の血を取り、燔祭の祭壇の角にそれを塗り、残りの血は燔祭の祭壇のもとに注がなければならぬ。二六また、そのすべての脂肪は、酬恩祭の犠牲の脂肪と同じように、祭壇の上で焼かなければならぬ。こうして、祭司が彼のためにその罪のあがないをするならば、彼はゆるされるであらう。二七また一般の人がもしあやまって罪を犯し、主のいま

しめにそむいて、してはならないことの一つをして、とがを得、二九その犯した罪を知るようになったときは、その犯した罪のために供え物として雌やぎの全きものを連れてきて、二九その罪祭の頭に手を置き、燔祭をほふる場所、その罪祭をほふらなければならない。三〇そして祭司は指でその血を取り、燔祭の祭壇の角にこれを塗り、残りの血をことごとく祭壇のもとに注がなければならない。三三またそのすべての脂肪は酬恩祭の犠牲から脂肪を取るのと同じように取り、これを祭壇の上で焼いて主にささげる香ばしいかおりとしなければならない。こうして祭司が彼のためにあがないをするならば、彼はゆるされるであらう。

三三もし小羊を罪祭のために供え物として連れてくるならば、雌の全きものを連れてこなければならない。三三その罪祭の頭に手を置き、燔祭をほふる場所で、これをほふり、罪祭としなければならない。三四そして祭司は指でその罪祭の血を取り、燔祭の祭壇の角にこれを塗り、残りの血はことごとく祭壇のもとに注がなければならない。三五またそのすべての脂肪は酬恩祭の犠牲から小羊の脂肪を取るのと同じように取り、祭司はこれを主にささげる火祭のように祭壇の上で焼かなければならない。こうして祭司が彼の犯した罪のためにあがないをするならば、彼はゆるされるであらう。

第五章 一もし人が証人に立ち、誓いの声を聞

きながら、その見たこと、知っていることを言わないで、罪を犯すならば、彼はそのとがを負わなければならない。二また、もし人が汚れた野獣の死体、汚れた家畜の死体、汚れた這うものの死体など、すべて汚れたものに触れるならば、そのことに気づかなくても、彼は汚れたものとなつて、とがを得る。三また、もし彼が人の汚れに触れるならば、その人の汚れが、どのような汚れであれ、それに気づかなくても、彼がこれを知るようになった時は、とがを得る。四また、もし人がみだりにくちびるで誓い、悪をなそう、または善をなそうと言うならば、その人が誓ってみだりに言ったことは、それがどんなことであれ、それに気づかなくても、彼がこれを知ようになった時は、これらの一つについて、とがを得る。五もしこれらの一つについて、とがを得たときは、その罪を犯したことを告白し、六その犯した罪のために償いとして、雌の家畜、すなわち雌の小羊または雌やぎを主のものに連れてきて、罪祭としなければならない。こうして祭司は彼のために罪のあがないをするであらう。

七もし小羊に手のとどかない時は、山ばと二羽か、家ばとのひな二羽かを、彼が犯した罪のために償いとして主に携えてきて、一羽を罪祭に、一羽を燔祭にしなければならない。八すなわち、これらを祭司に携えてきて、祭司はその罪祭のものを先にささげなければならない。すなわち、その頭を首の根のところ、摘み破らなけれ

ばならない。ただし、切り離してはならない。九そしてその罪祭の血を祭壇の側面に注ぎ、残りの血は祭壇のもとに絞り出さなければならぬ。これは罪祭である。一〇また第二のものは、定めにしたがって燔祭としなければならぬ。こうして、祭司が彼のためにその犯した罪のあがないをするならば、彼はゆるされるであろう。

一 二羽の山ばにも、二羽の家ばとのひなにも、手の届かないときは、彼の犯した罪のために、供え物として麦粉十分の一エバを携えてきて、これを罪祭としなければならぬ。ただし、その上に油をかけてはならない。またその上に乳香を添えてはならない。これは罪祭だからである。二 彼はこれを祭司のもとに携えて行き、祭司は一握りを取って、記念の分とし、これを主にささげる火祭のように、祭壇の上で焼かなければならない。これは罪祭である。三 こうして、祭司が彼のため、すなわち、彼がこれらの一つを犯した罪のために、あがないをするならば、彼はゆるされるであろう。そしてその残りは素祭と同じく、祭司に帰するであろう。

二 主はまたモーセに言われた、一五「もし人が不正をなし、あやまって主の聖なる物について罪を犯したときは、その償いとして、あなたの値積りにしたが、聖所のシケルで、銀数シケルに当る雄羊の全きものを、群れのうちから取り、それを主に携えてきて、愆祭としなければならぬ。一六そしてその聖なる物について犯した罪のた

めに償いをし、またその五分の一をこれに加えて、祭司に渡さなければならぬ。こうして祭司がその愆祭の雄羊をもって、彼のためにあがないをするならば、彼はゆるされるであろう。

一七また人がもし罪を犯し、主のいましめにそむいて、してはならないことのひとつをしたときは、たといそれを知らなくても、彼は罪を得、そのとがを負わなければならない。一八彼はあなたの値積りにしたがって、雄羊の全きものを群れのうちから取り、愆祭としてこれを祭司のもとに携えてこなければならぬ。こうして、祭司が彼のために、すなわち彼が知らないで、しかもあやまって犯した過失のために、あがないをするならば、彼はゆるされるであろう。一九これは愆祭である。彼は確かに主の前にとがを得たからである」。

第六章

一 主はまたモーセに言われた、二「もし人が罪を犯し、主に対して不正をなしたとき、すなわち預かり物、手にした質草、またはかすめた物について、その隣人を欺き、あるいはその隣人をしえたげ、三あるいは落し物を拾い、それについて欺き、偽って誓うなど、すべて人がそれをなして罪となることのひとつについて、罪を犯し、とがを得たならば、彼はそのかすめた物、しえたげて取った物、預かった物、拾った落し物、五または偽り誓ったすべての物を返さなければならぬ。すなわち残りなく償い、更にその五分の一をこれに加え、彼

が愆祭をささげる日に、これをその元の持ち主に渡さなければならぬ。六彼はその償いとして、あなたの値積りにしたが、雄羊の全きものを、群れの中から取り、これを祭司のもとに携えてきて、愆祭として主にささげなければならぬ。七こうして、祭司が主の前で彼のためにあがないをするならば、彼はそのいづれを行つてとが得てもゆるされるであらう」。

八主はまたモーセに言われた、九「アロンとその子たちに命じて言いなさい、『燔祭のおきては次のとおりである。燔祭は祭壇の炉の上に、朝まで夜もすがらあるようにし、そこに祭壇の火を燃え続けなければならぬ。一〇祭司は亜麻布の服を着、亜麻布のももひきを身につけ、祭壇の上で火に焼けた燔祭の灰を取つて、これを祭壇のそばに置き、二その衣服を脱ぎ、ほかの衣服を着て、その灰を宿営の外の清い場所に携へ出さなければならぬ。三祭壇の上の火は、そこに燃え続け、それを消してはならない。祭司は朝ごとに、たぎぎをその上に燃やし、燔祭をその上に並べ、また酬恩祭の脂肪をその上で焼かなければならぬ。四火は絶えず祭壇の上に燃え続け、これを消してはならない。』」

五素祭のおきては次のとおりである。アロンの子たちはそれを祭壇の前で主の前にささげなければならぬ。六すなわち素祭の麦粉一握りとその油を、素祭の上にある全部の乳香と共に取つて、祭壇の上で焼き、香ばしい

かおりとし、記念の分として主にささげなければならぬ。一六その残りはアロンとその子たちが食べなければならぬ。すなわち、種を入れずに聖なる所で食べなければならぬ。一七会見の幕屋の庭でこれを食べなければならぬ。一八これは種を入れて焼いてはならない。わたしはこれをわたしの火祭のうちから彼らの分として与える。一九これは罪祭および愆祭と同様に、いと聖なるものである。二〇アロンの子たちのうち、すべての男子はこれを食べることが出来る。これは主にささげる火祭のうちから、あなたがたが代々永久に受けるように定められた分である。すべてこれに触れるものは聖となるであらう」。

二一主はまたモーセに言われた、二二「アロンとその子たちが、アロンの油注がれる日に、主にささぐべき供え物は次のとおりである。すなわち麦粉十分の一エバを、絶えずささげる素祭とし、半ばは朝に、半ばは夕にささげなければならぬ。二三それは油をよく混ぜて平鍋で焼き、それを携えてきて、細かく砕いた素祭とし、香ばしいかおりとして、主にささげなければならぬ。二四彼の子たちのうち、油注がれて彼について祭司となる者は、これをささげなければならぬ。これは永久に主に帰する分として、全く焼きつくすべきものである。二五すべて祭司の素祭は全く焼きつくすべきものであつて、これを食べてはならない。』」

二六主はまたモーセに言われた、二七「アロンとその子た

ちに言いなさい、『罪祭のおきては次のとおりである。罪祭は燔祭をほふる場所で、主の前にほふらなければならぬ。これはいと聖なる物である。二六 罪のためにこれをささげる祭司が、これを食べなければならぬ。すなわち会見の幕屋の庭の聖なる所で、これを食べなければならぬ。二七 すべてその肉に触れる者は聖となるであらう。もしその血が衣服にかかったならば、そのかかったものは聖なる所で洗わなければならぬ。二八 またそれを煮た土の器は碎かなければならぬ。もし青銅の器で煮たのであれば、それはみがいて、水で洗わなければならぬ。二九 祭司たちのうちのすべての男子は、これを食べることが出来る。これはいと聖なるものである。三〇 しかし、その血を会見の幕屋に携えていって、聖所であがないに用いた罪祭は食べてはならない。これは火で焼き捨てなければならぬ。』

第七章 一 愆祭のおきては次のとおりである。

それはいと聖なる物である。二 愆祭は燔祭をほふる場所、ほふらなければならぬ。そして祭司はその血を祭壇の周囲に注ぎかけ、三 そのすべての脂肪をささげなければならぬ。すなわち脂尾、内臓をおおう脂肪、四 二つの腎臓とその上の腰のあたりにある脂肪、腎臓と共に取られる肝臓の上の小葉である。五 祭司はこれを祭壇の上で焼いて、主に火祭としなければならぬ。これは愆祭である。六 祭司たちのうちのすべての男子は、これを食

べることが出来る。これは聖なる所で食べなければならぬ。これはいと聖なる物である。七 罪祭も愆祭も、そのおきては一つであって、異なるところは無い。これは、あがないをなす祭司に帰する。八 人が携えてくる燔祭をささげる祭司、その祭司に、そのささげる燔祭のものの皮は帰する。九 すべて天火で焼いた素祭、またすべて深鍋または平鍋で作ったものは、これをささげる祭司に帰する。一〇 すべて素祭は、油を混ぜたものも、かわいたものも、アロンのすべての子たちにひとしく帰する。

二 主にささぐべき酬恩祭の犠牲のおきては次のとおりである。三 もしこれを感謝のためにささげるのであれば、油を混ぜた種入れぬ菓子と、油を塗った種入れぬ煎餅と、よく混ぜた麦粉に油を混ぜて作った菓子とを、感謝の犠牲に合わせてささげなければならぬ。四 また種を入れたパンの菓子とその感謝のための酬恩祭の犠牲に合わせ、供え物としてささげなければならぬ。五 すなわちこのすべての供え物のうちから、菓子一つずつを取って主にささげなければならぬ。これは酬恩祭の血を注ぎかける祭司に帰する。六 その感謝のための酬恩祭の犠牲の肉は、その供え物をささげた日のうちに食べなければならぬ。少しでも明くる朝まで残して置いてはならぬ。七 しかし、その供え物の犠牲がもし誓願の供え物、または自発の供え物であるならば、その犠牲をささげた日のうちにそれを食べ、その残りはまた明くる日に食べ

ることが出来る。二七ただし、その犠牲の肉の残りは三日目には火で焼き捨てなければならぬ。二八もしその酬恩祭の犠牲の肉を三日目に少しでも食べるならば、それは受け入れられず、また供え物と見なされず、かえって忌むべき物となるであらう。そしてそれを食べる者はとがを負わなければならない。

一九その肉がもし汚れた物に触れるならば、それを食べることもなく、火で焼き捨てなければならぬ。犠牲の肉はすべて清い者がこれを食べることが出来る。二〇もし人がその身に汚れがあるのに、主にささげた酬恩祭の犠牲の肉を食べるならば、その人は民のうちから断たれるであらう。三また人がもしすべて汚れたもの、すなわち人の汚れ、あるいは汚れた獣、あるいは汚れた這うものに触れながら、主にささげた酬恩祭の犠牲の肉を食べるならば、その人は民のうちから断たれるであらう。

三主はまたモーセに言われた、二三「イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたは、すべて牛、羊、やぎの脂肪を食べてはならない。二四自然に死んだ獣の脂肪および裂き殺された獣の脂肪は、さまざまのことに使ってもよい。しかし、それは決して食べてはならない。二五だれでも火祭として主にささげる獣の脂肪を食べるならば、これを食べる人は民のうちから断たれるであらう。二六またあなたがたはすべてその住む所で、鳥にせよ、獣にせよ、すべてその血を食べてはならない。二七だれでもすべ

て血を食べるならば、その人は民のうちから断たれるであらう』。

二八主はまたモーセに言われた、二九「イスラエルの人々に言いなさい、『酬恩祭の犠牲を主にささげる者は、その酬恩祭の犠牲のうちから、その供え物を主に携えてこなければならぬ。三〇主の火祭は手ずからこれを携えてこなければならぬ。三一人の胸はアロンとその子たちに帰す。三二あなたがたの酬恩祭の犠牲のうちから、その右のものもを挙祭として、祭司に与えなければならぬ。三三アロンの子たちのうち、酬恩祭の血と脂肪とをささげる者は、その右のものもを自分の分として、獲るであらう。三四わたしはイスラエルの人々の酬恩祭の犠牲のうちから、その揺祭の胸と挙祭のものもを取って、祭司アロンとその子たちに与え、これをイスラエルの人々から永久に彼らの受くべき分とする。三五これは主の火祭のうちから、アロンの受ける分と、その子たちの受ける分とであって、祭司の職をなすため、彼らが主にささげられた日に定められたのである。三六すなわち、これは彼らに油を注ぐ日に、イスラエルの人々が彼らに与えるように、主が命じられたものであって、代々永久に受くべき分である』。

三七 これは燔祭、素祭、罪祭、愆祭、任職祭、酬恩祭の犠牲のおきてである。三八 すなわち、主がシナイの荒野においてイスラエルの人々にその供え物を主にささげることとを命じられた日に、シナイ山でモーセに命じられたものである。

第八章 主はまたモーセに言われた、三「あなたはアロンとその子たち、およびその衣服、注ぎ油、罪祭の雄牛、雄羊二頭、種入れぬパン一かごを取り、三また全会衆を会見の幕屋の入口に集めなさい。四 モーセは主が命じられたようにした。そして会衆は会見の幕屋の入口に集まった。

五 そこでモーセは会衆にむかつて言った、「これは主があなたがたにせよと命じられたことである」。六 そしてモーセはアロンとその子たちを連れてきて、水で彼らを洗い清め、アロンに服を着させ、帯をしめさせ、衣をまとわせ、エポデを着けさせ、エポデの帯をしめさせ、それをもってエポデを身に結いつけ、八また胸当を着けさせ、その胸当にウリムとトンミムを入れ、九その頭に帽子をかぶらせ、その帽子の前に金の板、すなわち聖なる冠をつけさせた。主がモーセに命じられたとおりである。

一〇 モーセはまた注ぎ油を取り、幕屋とそのうちのすべての物に油を注いでこれを聖別し、二かつ、それを七たび祭壇に注ぎ、祭壇とそのもろもろの器、洗盤とその台

に油を注いでこれを聖別し、三また注ぎ油をアロンの頭に注ぎ、彼に油を注いでこれを聖別した。四 モーセはまたアロンの子たちを連れてきて、服を彼らに着させ、帯を彼らにしめさせ、頭巾を頭に巻かせた。主がモーセに命じられたとおりである。

五 彼はまた罪祭の雄牛を連れてこさせ、アロンとその子たちは、その罪祭の雄牛の頭に手を置いた。六 モーセはこれをほふり、その血を取り、指をもってその血を祭壇の四すみの角につけて祭壇を清め、また残りの血を祭壇のもとに注いで、これを聖別し、これがためにあがな

いをした。七 モーセはまたその内臓の上のすべての脂肪、肝臓の小葉、二つの腎臓とその脂肪とを取り、これを祭壇の上で焼いた。八 ただし、その雄牛の皮と肉と汚物は宿営の外で、火をもって焼き捨てた。主がモーセに命じられたとおりである。

九 彼はまた燔祭の雄羊を連れてこさせ、アロンとその子たちは、その雄羊の頭に手を置いた。一〇 モーセはこれをほふって、その血を祭壇の周囲に注ぎかけた。一一 そして、モーセはその雄羊を節々に切り分ち、その頭と切り分けたものと脂肪とを焼いた。一二 またモーセは水でその内臓と足とを洗い、その雄羊をことごとく祭壇の上で焼いた。これは香ばしいかおりのための燔祭であつて、主にささげる火祭である。主がモーセに命じられたとおりである。

三 彼はまたほかの雄羊、すなわち任職の雄羊を連れてこさせ、アロンとその子たちは、その雄羊の頭に手を置いた。三 モーセはこれをほふり、その血を取って、アロンの右の耳たぶと、右手の親指と、右足の親指とにつけた。四 またモーセはアロンの子たちを連れてきて、その血を彼らの右の耳たぶと、右手の親指と、右足の親指とにつけた。そしてモーセはその残りの血を、祭壇の周圍に注ぎかけた。五 彼はまたその脂肪、すなわち脂尾、内臓の上のすべての脂肪、肝臓の小葉、二つの腎臓とその脂肪、ならびにその右のものを取り、六 また主の前にある種入れぬパンのかごから種入れぬ菓子一つと、油を入れたパンの菓子一つと、煎餅一つとを取って、かの脂肪と右のものとの上に載せ、七 これをすべてアロンの手とその子たちの手に渡し、主の前に揺り動かさせて揺祭とした。八 そしてモーセはこれを彼らの手から取り、祭壇の上で燔祭と共に焼いた。これは香ばしいかおりとする任職の供え物であつて、主にささげる火祭である。九 そしてモーセはその胸を取り、主の前にこれを揺り動かして揺祭とした。これは任職の雄羊のうちモーセに帰すべき分であつた。主がモーセに命じられたとおりである。三〇 モーセはまた注ぎ油と祭壇の上の血とを取り、これをアロンとその服、またその子たちとその服とに注いで、アロンとその服、およびその子たちと、その服とを聖別した。

三 モーセはまたアロンとその子たちに言った、「会見の幕屋の入口でその肉を煮なさい。そして任職祭のかごの中のパンと共に、それをその所で食べなさい。これは『アロンとその子たちが食べなければならない、と言え』とわたしに命じられたとおりである。三 あなたがたはその肉とパンとの残ったものを火で焼き捨てなければならぬ。三三 あなたがたはその任職祭の終る日まで七日の間、会見の幕屋の入口から出てはならない。あなたがたの任職は七日を要するからである。三四 よう行つたように、あなたがたのために、あがないをせよ、と主はお命じになった。三五 あなたがたは会見の幕屋の入口に七日の間、日夜とどまり、主の仰せを守って、死ぬことのないようにしなければならぬ。わたしはそのように命じられたからである。三六 アロンとその子たちは主がモーセによつてお命じになったことを、ことごとく行つた。

第九章 一八日目になつて、モーセはアロンとその子たち、およびイスラエルの長老たちを呼び寄せ、二 アロンに言った、「あなたは雄の子牛の全きものを罪祭のために取り、また雄羊の全きものを燔祭のために取つて、主の前にささげなさい。三 あなたはまたイスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたは雄やぎを罪祭のために取り、また一歳の全き子牛と小羊とを燔祭のために取りなさい。四 また主の前にささげる酬恩祭のために雄牛と雄羊とを取り、また油を混ぜた素祭を取りなさい。

主がきようあなたがたに現れたもうからである』。五 彼らはモーセが命じたものを会見の幕屋の前に携えてきた。会衆がみな近づいて主の前に立ったので、六 モーセは言った、「これは主があなたがたに、せよと命じられたことである。こうして主の栄光はあなたがたに現れるであらう」。七 モーセはまたアロンに言った、「あなたは祭壇に近づき、あなたの罪祭と燔祭をささげて、あなたのため、また民のためにあがないをし、また民の供え物をささげて、彼らのためにあがないをし、すべて主がお命じになったようにしなさい」。

八 そこでアロンは祭壇に近づき、自分のための罪祭の子牛をほふった。九 そしてアロンの子たちは、その血を彼のもとに携えてきたので、彼は指をその血に浸し、それを祭壇の角につけ、残りの血を祭壇のもとに注ぎ、一〇 また罪祭の脂肪と腎臓と肝臓の小葉とを祭壇の上で焼いた。主がモーセに命じられたとおりである。二 またその肉と皮とは宿営の外で火をもって焼き捨てた。

三 彼はまた燔祭の獣をほふり、アロンの子たちがその血を彼に渡したので、これを祭壇の周囲に注ぎかけた。四 彼らがまた燔祭のもの、すなわち、その切り分けたものと頭とを彼に渡したので、彼はこれを祭壇の上で焼いた。五 またその内臓と足とを洗い、祭壇の上で燔祭と共にこれを焼いた。

六 彼はまた民の供え物をささげた。すなわち、民のた

めの罪祭のやぎを取ってこれをほふり、前のようにこれを罪のためにささげた。二六 また燔祭をささげた。すなわち、これを定めのようにささげた。二七 また素祭をささげ、そのうちから一握りを取り、朝の燔祭に加えて、これを祭壇の上で焼いた。

二八 彼はまた民のためにささげる酬恩祭の犠牲の雄牛と雄羊とをほふり、アロンの子たちが、その血を彼に渡し、たので、彼はこれを祭壇の周囲に注ぎかけた。二九 またその雄牛と雄羊との脂肪、すなわち、脂尾、内臓をおおうもの、腎臓、肝臓の小葉。三〇 これらの脂肪を彼らはその胸の上に載せて携えてきたので、彼はその脂肪を祭壇の上で焼いた。三一 その胸と右のもとは、アロンが主の前に揺り動かして揺祭とした。モーセが命じたとおりである。

三二 アロンは民にむかって手をあげて、彼らを祝福し、罪祭、燔祭、酬恩祭をささげ終って降りた。三三 モーセとアロンは会見の幕屋に入り、また出てきて民を祝福した。そして主の栄光はすべての民に現れ、三四 主の前から火が出て、祭壇の上の燔祭と脂肪とを焼きつくした。民はみな、これを見て喜びよばわり、そしてひれ伏した。

第一〇章 一 さてアロンの子ナダブとアビフとは、おのおのその香炉を取って火をこれに入れ、薫香をその上に盛って、異火を主の前にささげた。これは主の命令に反することであつたので、二 主の前から火が出て彼ら

を焼き滅ぼし、彼らは主の前に死んだ。三その時モーセはアロンに言った、「主は、こう仰せられた。すなわち『わたしは、わたしに近づく者のうちに、わたしの聖なることを示し、すべての民の前に栄光を現すであらう』。アロンは黙っていた。

四モーセはアロンの叔父ウジエルの子ミシヤエルとエルザパンとを呼び寄せて彼らに言った、「近寄って、あなたがたの兄弟たちを聖所の前から、宿営の外に運び出ささい」。五彼らは近寄って、彼らをその服のまま宿営の外に運び出し、モーセの言ったようにした。六モーセはまたアロンおよびその子エレアザルとイタマルとに言った、「あなたがたは髪の毛を乱し、また衣服を裂いてはならない。あなたがたが死ぬことのないため、また主の怒りが、すべての会衆に及ぶことのないためである。ただし、あなたがたの兄弟イスラエルの全家は、主が火をもって焼き滅ぼしたもうたことを嘆いてもよい。七また、あなたがたは死ぬことのないように、会見の幕屋の入口から外へ出てはならない。あなたがたの上に主の注ぎ油があるからである」。彼らはモーセの言葉のとおりにした。

八主はアロンに言われた、「あなたも、あなたの子たちも会見の幕屋にはいる時には、死ぬことのないように、ぶどう酒と濃い酒を飲んではならない。これはあなたがたが代々永く守るべき定めとしなければならぬ。ここ

れはあなたがたが聖なるものと俗なるもの、汚れたものと清いものとの区別をすることができするため、二また主がモーセによって語られたすべての定めを、イスラエルの人々に教えることができるためである」。

三モーセはまたアロンおよびその残っている子エレアザルとイタマルとに言った、「あなたがたは主の火祭のうちから素祭の残りを取り、パン種を入れずに、これを祭壇のかたわらで食べなさい。これはいと聖なる物である。四これは主の火祭のうちからあなたの受ける分、またあなたの子たちの受ける分であるから、あなたがたはこれを聖なる所で食べなければならない。わたしはこのように命じられたのである。五また揺り動かした胸とささげたものとは、あなたとあなたのむすこ、娘たちがこれを清い所で食べなければならない。これはイスラエルの人の酬恩祭の犠牲の中からあなたの分、あなたの子たちの分として与えられるものだからである。六彼らはそのささげたものと揺り動かした胸とを、火祭の脂肪と共に携えてきて、これを主の前に揺り動かして揺祭としなければならない。これは主がお命じになったように、長く受くべき分としてあなたと、あなたの子たちとに帰するであらう」。

七さてモーセは罪祭のやぎを、ていねいに捜したが、見よ、それがすでに焼かれていたので、彼は残っているアロンの子エレアザルとイタマルとにむかい、怒って言っ

た、「七」あなたがたは、なぜ罪祭のものを聖なる所で食べなかつたのか。これはいと聖なる物であつて、あなたがたが会衆の罪を負つて、彼らのために主の前にあがないをするため、あなたがたに賜つた物である。「八見よ、その血は聖所の中に携え入れなかつた。その肉はわたしが命じたように、あなたがたは必ずそれを聖なる所で食べるべきであつた」。「九アロンはモーセに言った、「見よ、きょう、彼らはその罪祭と燔祭とを主の前にささげたが、このような事がわたしに臨んだ。もしわたしが、きょう罪祭のものを食べたとしたら、主はこれをよしとせられたであらうか」。「一〇モーセはこれを聞いて良しとした。

第一一章 「主はまたモーセとアロンに言われた、ミイスラエルの人々に言いなさい、『地にあるすべての獣のうち、あなたがたの食べることができる動物は次のとおりである。三獣のうち、すべてひずめの分かれたもの、すなわち、ひずめの全く切れたもの、反芻するものは、これを食べることができる。四ただし、反芻するもの、またはひずめの分かれたもののうち、次のものは食べてはならない。すなわち、らくだ、これは、反芻するけれども、ひずめが分かれていないから、あなたがたには汚れたものである。五岩たぬき、これは、反芻するけれども、ひずめが分かれていないから、あなたがたには汚れたものである。六野うさぎ、これは、反芻するけれども、

ひずめが分かれていないから、あなたがたには汚れたものである。七豚、これは、ひずめが分かれており、ひずめが全く切れているけれども、反芻することをしないから、あなたがたには汚れたものである。八あなたがたは、これらのものの肉を食べてはならない。またその死体に触れてはならない。これらは、あなたがたには汚れたものである。

九水の中にいるすべてのもののうち、あなたがたの食べることができるものは次のとおりである。すなわち、海でも、川でも、すべて水の中にいるもので、ひれと、うろこのあるものは、これを食べることができる。一〇すべて水に群がるもの、またすべての水の中にいる生き物のうち、すなわち、すべて海、また川にいて、ひれと、うろこのないものは、あなたがたに忌むべきものである。二これらはあなたがたに忌むべきものであるから、あなたがたはその肉を食べてはならない。またその死体は忌むべきものとしなければならぬ。三すべて水の中にいて、ひれも、うろこもないものは、あなたがたに忌むべきものである。

三鳥のうち、次のものは、あなたがたに忌むべきものとして、食べてはならない。それらは忌むべきものである。すなわち、はげわし、ひげはげわし、みさご、二四とび、はやぶさの類、二五もろもろのからすの類、二六だちやう、よたか、かもめ、たかの類、二七ふくろう、う、みみ

ずく、一八むらさきばん、ペリカン、はげたか、一九こうのと
とり、さぎの類、やつがしら、こうもり。

二〇また羽があつて四つの足で歩くすべての這うものは、あなたがたに忌むべきものである。三ただし、羽があつて四つの足で歩くすべての這うものうち、その足のうえに、跳ね足があり、それで地の上をはねるものは食ふことができる。三すなわち、そのうち次のものは食ふことができる。移住いなどの類、遍歴いなどの類、大いなどの類、小いなどの類である。三しかし、羽があつて四つの足で歩く、そのほかのすべての這うものは、あなたがたに忌むべきものである。

二四あなたがたは次の場合に汚れたものとなる。すなわち、すべてこれらのものの死体に触れる者は夕まで汚れる。二五すべてこれらのものの死体を運ぶ者は、その衣服を洗わなければならない。彼は夕まで汚れる。二六すべて、ひずめの分かれた獣で、その切れ目の切れていないもの、また、反芻することをしていないものは、あなたがたに汚れたものである。すべて、これに触れる者は汚れる。二七すべて四つの足で歩く獣のうち、その足の裏のふくらみで歩くものは皆あなたがたに汚れたものである。すべてその死体に触れる者は夕まで汚れる。二八その死体を運ぶ者は、その衣服を洗わなければならない。彼は夕まで汚れる。これらは、あなたがたに汚れたものである。

二九地にはう這うものうち、次のものはあなたがたに

汚れたものである。すなわち、もぐらねずみ、とびねずみ、とげ尾とかげの類、三〇やもり、大とかげ、とかげ、すなとかげ、カメレオン。三一もろもろの這うものうち、これらはあなたがたに汚れたものである。すべてそれらのものが死んで、それに触れる者は夕まで汚れる。三二またそれらのものが死んで、それが落ちかかった物はすべて汚れる。木の器であれ、衣服であれ、皮であれ、袋であれ、およそ仕事に使う器はそれを水に入れなければならない。それは夕まで汚れているが、そののち清くなる。三三またそれらのものが、土の器の中に落ちたならば、その中にあるものは皆汚れる。あなたがたはその器をこわさなければならない。三四またすべてその中にある食物で、水分のあるものは汚れる。またすべてそのような器の中にある飲み物も皆汚れる。三五またそれらのものの死体が落ちかかったならば、その物はすべて汚れる。天火であれ、かまどであれ、それをこわさなければならない。これらは汚れたもので、あなたがたに汚れたものとなる。三六ただし、泉、あるいは水の集まった水たまりは汚れない。しかし、その死体に触れる者は汚れる。三七それらのものの死体が、まく種の上に落ちて、それは汚れない。三八ただし、種の上に水がかかっている、その上にそれらのものの死体が、落ちるならば、それはあなたがたに汚れたものとなる。

三九あなたがたの食ふ獣が死んだ時、その死体に触れ

る者は夕まで汚れる。四〇その死体を食べる者は、その衣服を洗わなければならない。夕まで汚れる。その死体を運ぶ者も、その衣服を洗わなければならない。夕まで汚れる。

四一すべて地にはう這うものは忌むべきものである。これを食べてはならない。四二すべて腹ばい行くもの、四つ足で歩くもの、あるいは多くの足をもつもの、すなわち、すべて地にはう這うものは、あなたがたはこれを食べてはならない。それらは忌むべきものだからである。四三あなたがたはすべて這うものによって、あなたがたの身を忌むべきものとしてはならない。また、これをもって身を汚し、あるいはこれによって汚されてはならない。四四わたしはあなたがたの神、主であるから、あなたがたはおのれを聖別し、聖なる者とならなければならない。わたしは聖なる者である。地にはう這うものによって、あなたがたの身を汚してはならない。四五わたしはあなたがたの神となるため、あなたがたをエジプトの国から導き上った主である。わたしは聖なる者であるから、あなたがたは聖なる者とならなければならない。四六これは獣と鳥と、水の中に動くすべての生き物と、地に這うすべてのものに関するおきてであって、四七汚れたものと清いもの、食べられる生き物と、食べられない生き物とを区別するものである。

第一二章 主はまたモーセに言われた、三イス

ラエルの人々に言いなさい、『女がもし身をもって男の子を産めば、七日のあいだ汚れる。すなわち、月のさわりの日かぎりほど汚れるであらう。三八日目にはその子の前の皮に割れを施さなければならない。四その女はなお、血の清めに三十三日を経なければならない。その清めの日の満ちるまでは、聖なる物に触れてはならない。また、聖なる所にはいつてはならない。五もし女の子を産めば、二週間、月のさわりと同じように汚れる。その女はなお、血の清めに六十六日を経なければならない。

六男の子または女の子についての清めの日が満ちるとき、女は燔祭のために一歳の小羊、罪祭のために家ばとのひな、あるいは山ばとを、会見の幕屋の入口の、祭司のもとに、携えてこなければならない。七祭司はこれを主の前にささげて、その女のために、あがないをしなければならない。こうして女はその出血の汚れが清まるであらう。これは男の子または女の子を産んだ女のためのおきてである。八もしその女が小羊に手の届かないときは、山ばと二羽か、家ばとのひな二羽かを取って、一つを燔祭、一つを罪祭とし、祭司はその女のために、あがないをしなければならない。こうして女は清まるであらう。』

第一三章 主はまたモーセとアロンに言われた、三人がその身の皮に腫、あるいは吹出物、あるいは光る所ができ、これがその身の皮にらひ病の患部のよう

なるならば、その人を祭司アロンまたは、祭司なるアロンの子たちのひとりのもとに、連れて行かなければならない。三祭司はその身の皮の患部を見、その患部の毛がもし白く変り、かつ患部が、その身の皮よりも深く見えるならば、それはらい病の患部である。祭司は彼を見て、これを汚れた者としなければならぬ。四もしまたその身の皮の光る所が白くて、皮よりも深く見えず、また毛も白く変っていないならば、祭司はその患者を七日のあいだ留め置かなければならない。五七日目に祭司はこれを見て、もし患部の様子に变りがなく、また患部が皮に広がっていないならば、祭司はその人をさらに七日のあいだ留め置かなければならない。六七日目に祭司は再びその人を見て、患部がもし薄らぎ、また患部が皮に広がっていないならば、祭司はこれを清い者としなければならぬ。これは吹出物である。その人は衣服を洗わなければならぬ。そして清くなるであらう。七しかし、その人が祭司に見せて清い者とされた後に、その吹出物が皮に広くひろがるならば、再び祭司にその身を見せなければならぬ。八祭司はこれを見て、その吹出物が皮に広がっているならば、祭司はその人を汚れた者としなければならぬ。これはらい病である。

九もし人にらい病の患部があるならば、その人を祭司のもとに連れて行かなければならない。一〇祭司がこれを見て、その皮に白い腫があり、その毛も白く変り、かつ

その腫に生きた生肉が見えるならば、二これは古いらい病がその身の皮にあるのであるから、祭司はその人を汚れた者としなければならぬ。その人は汚れた者であるから、これを留め置くに及ばない。三もしらい病が広く皮に出て、そのらい病が、その患者の皮を頭から足まで、ことごとくおおい、祭司の見るところすべてに及んでおれば、四祭司はこれを見、もしらい病がその身をことごとくおおっておれば、その患者を清い者としなければならぬ。それはことごとく白く変ったから、彼は清い者である。五しかし、もし生肉がその人に現れておれば、汚れた者である。六祭司はその生肉を見て、その人を汚れた者としなければならぬ。生肉は汚れたものであつて、それはらい病である。七もしまたその生肉が再び白く変るならば、その人は祭司のもとに行かなければならない。八祭司はその人を見て、もしその患部が白く変っておれば、祭司はその患者を清い者としなければならぬ。その人は清い者である。

九また身の皮に腫物があったが、直つて、一〇その腫物の場所に白い腫、または赤みをおびた白い光る所があれば、これを祭司に見せなければならぬ。二祭司はこれを見て、もし皮よりも低く見え、その毛が白く変っていないならば、祭司はその人を汚れた者としなければならぬ。三しかし、それは腫物に起つたららい病の患部だからである。四しかし、祭司がこれを見て、もしその所に白い毛がなく、また

皮よりも低い所がなく、かえって薄らいでいるならば、祭司はその人を七日のあいだ留め置かなければならない。三、そしてもし皮に広くひろがつているならば、祭司はその人を汚れた者としなければならぬ。それは患部だからである。三三、しかし、その光る所がもしその所にとどまって広がらなければ、それは腫物の跡である。祭司はその人を清い者としなければならぬ。二四、また身の皮にやけどがあつて、そのやけどの生きた肉がもし赤みをおびた白、または、ただ白くて光る所となるならば、二五、祭司はこれを見なければならぬ。そしてもし、その光る所にある毛が白く変つて、そこが皮よりも深く見えるならば、これはやけどに生じたらぬ病である。祭司はその人を汚れた者としなければならぬ。これはらい病の患部だからである。二六、けれども祭司がこれをみて、その光る所に白い毛がなく、また皮よりも低い所がなく、かえって薄らいでいるならば、祭司はその人を七日のあいだ留め置き、二七、七日目に祭司は彼を見なければならぬ。もし皮に広くひろがつているならば、祭司はその人を汚れた者としなければならぬ。これはらい病の患部だからである。二八、もしその光る所が、その所にとどまって、皮に広がらずに、かえって薄らいでいるならば、これはやけどの腫である。祭司はその人を清い者としなければならぬ。これはやけどの跡だからである。

二九、男あるいは女がもし、頭またはあごに患部が生じたならば、三〇、祭司はその患部を見なければならぬ。もしそれが皮よりも深く見え、またそこに黄色の細い毛があるならば、祭司はその人を汚れた者としなければならぬ。それはかいせんであつて、頭またはあごのらい病だからである。三一、また祭司がそのかいせんの患部を見て、もしそれが皮よりも深く見えず、またそこに黒い毛がないならば、祭司はそのかいせんの患者を七日のあいだ留め置き、三二、七日目に祭司はその患部を見なければならぬ。そのかいせんがもし広がらず、またそこに黄色の毛がなく、そのかいせんが皮よりも深く見えないならば、三三、その人は身をそらなければならぬ。ただし、そのかいせんをそつてはならない。祭司はそのかいせんのある者をさらに七日のあいだ留め置き、三四、七日目に祭司はそのかいせんを見なければならぬ。もしそのかいせんが皮に広がらず、またそれが皮よりも深く見えないならば、祭司はその人を清い者としなければならぬ。その人はまたその衣服を洗わなければならぬ。そして清くなるであらう。三五、しかし、もし彼が清い者とされた後に、そのかいせんが、皮に広くひろがるならば、三六、祭司はその人を見なければならぬ。もしそのかいせんが皮に広がつて、その人は汚れた者である。三七、しかし、もしそのかいせんの様子に変わりなく、そこに黒い毛が生じているならば、

そのかいせんは直ったので、その人は清い。祭司はその人を清い者としなければならぬ。

三八また男あるいは女がもし、その身の皮に光る所、すなわち白い光る所があるならば、三九祭司はこれを見なければならぬ。もしその身の皮の光る所が、鈍い白であるならば、これはただ白せんがその皮に生じたのであって、その人は清い。

四〇人がもしその頭から毛が抜け落ちて、それがはげならば清い。四一もしその額の毛が抜け落ちて、それが額のはげならば清い。四二けれども、もしそのはげ頭または、はげ額に赤みをおびた白い患部があるならば、それはそのはげ頭または、はげ額にらいた病が発したのである。四三祭司はこれを見なければならぬ。もしそのはげ頭または、はげ額の患部の腫が白く赤みをおびて、身の皮にらいた病があらわれているならば、四四その人はらいた病に冒された者であつて、汚れた者である。祭司はその人を確かに汚れた者としなければならぬ。患部が頭にあるからである。

四五患部のあるらいた病人は、その衣服を裂き、その頭を現し、その口ひげをおおつて『汚れた者、汚れた者』と呼ばわなければならない。四六その患部が身にある日の間は汚れた者としなければならない。その人は汚れた者であるから、離れて住まなければならない。すなわち、そのすまいは宿営の外でなければならない。

四七また衣服にらいた病の患部が生じた時は、それが羊毛の衣服であれ、亜麻の衣服であれ、四八あるいは亜麻または羊毛の縦糸であれ、横糸であれ、あるいは皮であれ、皮で作ったどのような物であれ、四九もしその衣服あるいは皮、あるいは縦糸、あるいは横糸、あるいは皮で作ったどのような物であれ、その患部が青みをおびているか、あるいは赤みをおびているならば、これはらいた病の患部である。これを祭司に見せなければならない。五〇祭司はその患部を見て、その患部のある物を七日のあいだ留め置き、五七七日目に患部を見て、もしその衣服、あるいは縦糸、あるいは横糸、あるいは皮、またどのように用いられている皮であれ、患部が広がっているならば、その患部は悪性のらいた病であつて、それは汚れた物である。五三彼はその患部のある衣服、あるいは羊毛、または亜麻の縦糸、または横糸、あるいはすべて皮で作った物を焼かなければならない。これは悪性のらいた病であるから、その物を火で焼かなければならない。

五三しかし、祭司がこれを見て、もし患部がその衣服、あるいは縦糸、あるいは横糸、あるいはすべて皮で作った物に広がっていないならば、五四祭司は命じて、その患部のある物を洗わせ、さらに七日の間これを留め置かなければならない。五五そしてその患部を洗った後、祭司はそれを見て、もし患部の色が変わらなければ、患部が広がらなくても、それは汚れた物である。それが表にあつて

も裏にあつても腐れであるから、それを火で焼かなければならない。

しかし、祭司がこれを見て、それを洗った後に、その患部が薄らいだならば、その衣服、あるいは皮、あるいは縦糸、あるいは横糸から、それを切り取らなければならぬ。しかし、なおその衣服、あるいは縦糸、あるいは横糸、あるいはすべて皮で作った物にそれが現れれば、それは再発したのである。その患部のある物を火で焼かなければならない。五八 また洗った衣服、あるいは縦糸、あるいは横糸、あるいはすべて皮で作った物から、患部が消え去るならば、再びそれを洗わなければならぬ。そうすれば清くなるであらう。

五九 これは羊毛または亜麻の衣服、あるいは縦糸、あるいは横糸、あるいはすべて皮で作った物に生じるらしい病の患部について、それを清い物とし、または汚れた物とするためのおきてである。

第一章 四章 一主はまたモーセに言われた、三「らい病人が清い者とされる時のおきては次のとおりである。すなわち、その人を祭司のもとに連れて行き、三祭司は宿営の外に出て行って、その人を見、もしらい病の患部がいえているならば、四祭司は命じてその清められる者のために、生きている清い小鳥二羽と、香柏の木と、緋の糸と、ヒソブとを取ってこさせ、五祭司はまた命じて、その小鳥の一羽を、流れ水を盛った土の器の上で殺させ、

六そして生きている小鳥を、香柏の木と、緋の糸と、ヒソブと共に取って、これをかの流れ水を盛った土の器の上で殺した小鳥の血に、その生きている小鳥と共に浸し、七これをらい病から清められる者に七たび注いで、その人を清い者とし、その生きている小鳥は野に放たなければならぬ。八清められる者はその衣服を洗い、毛をこごとくそり落し、水に身をすすいで清くなり、その後、宿営にはいることができる。ただし七日の間はその天幕の外にいななければならぬ。九そして七日目に毛をこごとくそらなければならぬ。頭の毛も、ひげも、まゆも、こごとくそらなければならぬ。彼はその衣服を洗い、水に身をすすいで清くなるであらう。

一〇八日目にその人は雄の小羊の全きものと、一歳の雌の小羊の全きものと一頭とを取り、また麦粉十分の三エバに油を混ぜた素祭と、油一ログとを取らなければならぬ。二清めをなす祭司は、清められる人とこれらの物とを、会見の幕屋の入口で主の前に置き、二三祭司は、かの雄の小羊一頭を取って、これを一ログの油と共に懺祭としてささげ、またこれを主の前に揺り動かして懺祭としなければならぬ。二三この雄の小羊は罪祭および燔祭をほふる場所、すなわち聖なる所で、これをほふらなければならぬ。懺祭は罪祭と同じく、祭司に帰するものであつて、いと聖なる物である。二四そして祭司はその懺祭の血を取り、これを清められる者の右の耳たぶと、

右の手の親指と、右の足の親指とにつけなければならぬ。二五 祭司はまた一ログの油を取って、これを自分の左手の手のひらに注ぎ、二六そして祭司は右の指を左の手のひらにある油に浸し、その指をもって、その油を七たび主の前に注がなければならぬ。二七祭司は手のひらにある油の残りを、清められる者の右の耳たぶと、右の手の親指と、右の足の親指とに、さきにつけた愆祭の血の上につけなければならぬ。二八そして祭司は手のひらになお残っている油を、清められる者の頭につけ、主の前で、その人のためにあがないをしなければならぬ。二九また祭司は罪祭をささげて、汚れのゆえに、清められねばならぬ者のためにあがないをし、その後、燔祭のものをほふらなければならぬ。三〇そして祭司は燔祭と素祭とを祭壇の上にささげ、その人のために、あがないをしなければならぬ。こうしてその人は清くなるであろう。

三 三その人がもし貧しくて、それに手の届かない時は、自分のあがないのために揺り動かす愆祭として、雄の小羊一頭を取り、また素祭として油を混ぜた麦粉十分の一エバと、油一ログとを取り、三さらにその手の届く山ばと二羽、または家ばとのひな二羽を取らなければならぬ。その一つは罪祭のため、他の一つは燔祭のためである。三三そして八日目に、その清めのために会見の幕屋の入口における祭司のもと、主の前にこれを携えて行かなければならぬ。三四祭司はその愆祭の雄の小羊と、一ログ

の油とを取り、これを主の前に揺り動かして燔祭としなければならぬ。三五そして祭司は愆祭の雄の小羊をほふり、その愆祭の血を取って、これを清められる者の右の耳たぶと、右の手の親指と、右の足の親指とにつけなければならぬ。三六また祭司はその油を自分の左手のひらに注ぎ、三七祭司はその右の指をもって、左の手のひらにある油を、七たび主の前に注がなければならぬ。三八また祭司はその手のひらにある油を、清められる者の右の耳たぶと、右の手の親指と、右の足の親指とに、すなわち、愆祭の血をつけたところにつけなければならぬ。三九また祭司は手のひらに残っている油を、清められる者の頭につけ、主の前で、その人のために、あがないをしなければならぬ。四〇その人はその手の届く山ばと一羽、または家ばとのひな一羽をささげなければならぬ。

三三すなわち、その手の届くものの一つを罪祭とし、他の一つを燔祭として素祭と共にささげなければならぬ。こうして祭司は清められる者のために、主の前にあがないをするであろう。三三これはらい病の患者で、その清めに必要なものに、手の届かない者のためのおきてである。

三三主はまたモーセとアロンに言われた、三四「あなたがたに所有として与えるカナンの地に、あなたがたがはいるとき、その所有の地において、家にわたしがらい病の患者を生じさせることがあれば、三五その家の持ち主はき

て、祭司に告げ、『患部のようなものが、わたしの家にあります』と言わなければならぬ。祭司は命じて、祭司がその患部を見に行く前に、その家をあげさせ、その家にあるすべての物が汚されないようにし、その後、祭司は、はいつてその家を見なければならぬ。三七その患部を見て、もしその患部が家の壁にあって、青または赤のくばみをもち、それが壁よりも低く見えるならば、祭司はその家を出て、家の入口にいたり、七日の間その家を閉鎖しなければならぬ。三八祭司は七日目に、またきてそれを見、その患部がもし家の壁に広がっているならば、祭司は命じて、その患部のある石を取り出し、町の外の汚れた物を捨てる場所に捨てさせ、四二またその家の内側のまわりを削らせ、その削ったしつくい町の外に、汚れた物を捨てる場所に捨てさせ、四三ほかの石を取って、元の石のところに入れさせ、またほかのしつくいを取って、家を塗らせなければならぬ。

四四このように石を取り出し、家を削り、塗りかえた後に、その患部がもし再び家に出るならば、祭司はまたきて見なければならぬ。患部がもし家に広がっているならば、これは家にある悪性のらい病であつて、これは汚れた物である。四五その家は、こぼち、その石、その木、その家のしつくいは、ことごとく町の外の汚れた物を捨てる場所に運び出さなければならぬ。四六その家が閉鎖されている日の間に、これにはいる者は夕まで汚れるで

あろう。四七その家に寝る者はその衣服を洗わなければならぬ。その家で食する者も、その衣服を洗わなければならぬ。

四八しかし、祭司がはいつて見て、もし家を塗りかえた後に、その患部が家に広がっていないければ、これはその患部がいったのであるから、祭司はその家を清いものとしなければならぬ。四九また彼はその家を清めるために、小鳥二羽と、香柏の木と、緋の糸と、ヒソブとを取り、五〇その小鳥の一羽を流れ水を盛った土の器の上で殺し、五二香柏の木と、ヒソブと、緋の糸と、生きてゐる小鳥とを取って、その殺した小鳥の血と流れ水に浸し、これを七たび家に注がなければならぬ。五三こうして祭司は小鳥の血と流れ水と、生きてゐる小鳥と、香柏の木と、ヒソブと、緋の糸とをもって家を清め、五五その生きてゐる小鳥は町の外の野に放して、その家のために、あがないをしなければならぬ。こうして、それは清くなるであらう。

五五これはらい病のすべての患部、かいせん、五五および衣服と家のらい病、五六ならびに腫と、吹出物と、光る所とに関するおきてであつて、五七いつそれが汚れているか、いつそれが清いかを教えるものである。これがらい病に関するおきてである。

第一五章 一主はまた、モーセとアロンに言われた、二「イスラエルの人々に言いなさい、『だれでもその

肉に流出があれば、その流出は汚れである。三その流出による汚れは次のとおりである。すなわち、その肉の流出が続いていても、あるいは、その肉の流出が止まっていても、共に汚れである。四流出ある者の寝た床はすべて汚れる。またその人のすわった物はすべて汚れるであらう。五その床に触れる者は、その衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。六流出ある者のすわった物の上にすわる者は、その衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。七流出ある者の肉に触れる者は衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。八流出ある者のつばきが、清い者にかかったならば、その人は衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。九流出ある者の乗った鞍はすべて汚れる。一〇また彼の下になった物に触れる者は、すべて夕まで汚れるであらう。またそれらの物を運ぶ者は、その衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。二流出ある者が、水で手を洗わずに人に触れるならば、その人は衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。三流出ある者が触れた土の器は砕かなければならぬ。木の器はすべて水で洗わなければならぬ。

三流出ある者の流出がやんで清くなるならば、清めの

ために七日を数え、その衣服を洗い、流れ水に身をすすがなければならぬ。そうして清くなるであらう。二四八日目に、山ばと二羽、または家ばとのひな二羽を取って、会見の幕屋の入口に行き、主の前に出て、それを祭司に渡さなければならぬ。二五祭司はその一つを罪祭とし、他の一つを燔祭としてささげなければならぬ。こうして祭司はその人のため、その流出のために主の前に、あがないをするであらう。

二六人がもし精を漏らすことがあれば、その全身を水にすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。二七すべて精のついた衣服および皮で作った物は水で洗わなければならぬ。これは夕まで汚れるであらう。二八男がもし女と寝て精を漏らすことがあれば、彼らは共に水に身をすすがなければならぬ。彼らは夕まで汚れるであらう。

一九また女に流出があつて、その身の流出がもし血であるならば、その女は七日のあいだ不浄である。すべてその女に触れる者は夕まで汚れるであらう。二〇その不浄の間に、その女の寝た物はすべて汚れる。またその女のすわった物も、すべて汚れるであらう。二一すべてその女の床に触れる者は、その衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。二二すべてその女の女のすわった物に触れる者は皆その衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼は夕まで汚れるであらう。

う。三またその女が床の上、またはすわる物の上におる時、それに触れるならば、その人は夕まで汚れるであらう。二男がもし、その女と寝て、その不浄を身にうけるならば、彼は七日のあいだ汚れるであらう。また彼の寝た床はすべて汚れるであらう。

三五女にもし、その不浄の時のほかに、多くの日にわたって血の流出があるか、あるいはその不浄の時を越して流出があれば、その汚れの流出の日の間は、すべてその不浄の時と同じように、その女は汚れた者である。二六その流出の日の間に、その女の寝た床は、すべてその女の不浄の時の床と同じようになる。すべてその女のすわった物は、不浄の汚れのように汚れるであらう。二七すべてこれらの物に触れる人は汚れる。その衣服を洗い、水に身をすすがなければならない。彼は夕まで汚れるであらう。二八しかし、その女の流出がやんで、清くなるならば、自分のために、なお七日を数えなければならない。そして後、清くなるであらう。二九その女は八日目に山ばと二羽、または家ばとのひな二羽を自分のために取り、それを会見の幕屋の入口におる祭司のもとに携えて行かなければならない。三〇祭司はその一つを罪祭とし、他の一つを燔祭としてささげなければならない。こうして祭司はその女のため、その汚れの流出のために主の前に、あがないをするであらう。

三二このようにしてあなたがたは、イスラエルの人々を

汚れから離さなければならない。これは彼らのうちにあるわたしの幕屋を彼らが汚し、その汚れのために死ぬことのないためである。

三三これは流出ある者、精を漏らして汚れる者、三不浄をわずらう女、ならびに男あるいは女の流出ある者、および不浄の女と寝る者に関するおきてである。

第一 六章 アロンのふたりの子が、主の前に近づいて死んだ後、二主はモーセに言われた、「あなたの兄弟アロンに告げて、彼が時をわかつた、垂幕の内なる聖所に入り、箱の上なる贖罪所の前に行かぬようにさせなさい。彼が死を免れるためである。なぜなら、わたしは雲の中にあつて贖罪所の上に現れるからである。三アロンが聖所に、はいるには、次のようにしなければならない。すなわち雄の子牛を罪祭のために取り、雄羊を燔祭のために取り、聖なる亜麻布の服を着、亜麻布の帽子をその身にまとい、亜麻布の帯をしめ、亜麻布の帽子をかぶらなければならない。これらは聖なる衣服である。彼は水に身をすすいで、これを着なければならない。五またイスラエルの人々の会衆から雄やぎ二頭を罪祭のために取り、雄羊一頭を燔祭のために取らなければならない。

六そしてアロンは自分のための罪祭の雄牛をささげて、自分と自分の家族のために、あがないをしなければならない。七アロンはまた二頭のやぎを取り、それを会見の

幕屋の入口で主の前に立たせ、ハその二頭のやぎのために、くじを引かなければならない。すなわち一つのくじは主のため、一つのくじはアザセルのためである。九そしてアロンは主のためのくじに当ったやぎをささげて、これを罪祭としなければならぬ。一〇しかし、アザセルのためのくじに当ったやぎは、主の前に生かしておき、これをもって、あがないをなし、これをアザセルのために、荒野に送らなければならぬ。

二すなわち、アロンは自分のための罪祭の雄牛をささげて、自分と自分の家族のために、あがないをしなければならぬ。彼は自分のための罪祭の雄牛をほふり、三主の前の祭壇から炭火を満たした香炉と、細かくひいた香ばしい薫香を両手いっぱい取って、これを垂幕の内に携え入り、四主の前で薫香をその火にくべ、薫香の雲に、あかしの箱の上なる贖罪所をおおわせなければならぬ。こうして、彼は死を免れるであらう。五彼はまたその雄牛の血を取り、指をもってこれを贖罪所の東の面に注ぎ、また指をもってその血を贖罪所の前に、七たび注がなければならぬ。

一五また民のための罪祭のやぎをほふり、その血を垂幕の内に携え入り、その血をかの雄牛の血のように、贖罪所の上と、贖罪所の前に注ぎ、一六イスラエルの人々の汚れと、そのとが、すなわち、彼らのもろもろの罪のゆえに、聖所のためにあがないをしなければならぬ。また

彼らの汚れのうちに、彼らと共にある会見の幕屋のためにも、そのようにしなければならぬ。一七彼が聖所であがないをするために、はいつた時は、自分と自分の家族と、イスラエルの全会衆のために、あがないをなし終えて出るまで、だれも会見の幕屋の内にはならぬ。一八そして彼は主の前の祭壇のもとに出てきて、これがために、あがないをしなければならぬ、すなわち、かの雄牛の血と、やぎの血とを取って祭壇の四すみの角につけ、一九また指をもって七たびその血をその上に注ぎ、イスラエルの人々の汚れを除いてこれを清くし、聖別しなければならぬ。

二〇こうして聖所と会見の幕屋と祭壇とのために、あがないをなし終えたとき、かの生きてゐるやぎを引いてこなければならぬ。二一そしてアロンは、その生きてゐるやぎの頭に両手をおき、イスラエルの人々のもろもろの悪と、もろもろのとが、すなわち、彼らのもろもろの罪をその上に告白して、これをやぎの頭にのせ、定めておいた人の手によって、これを荒野に送らなければならぬ。二三こうしてやぎは彼らのもろもろの悪をになつて、人里離れた地に行くであらう。すなわち、そのやぎを荒野に送らなければならぬ。

二四そして、アロンは会見の幕屋に入り、聖所に入る時に着た亜麻布の衣服を脱いで、そこに置き、二五聖なる所で水に身をすすぎ、他の衣服を着、出てきて、自分の燔

祭と民の燔祭とをささげて、自分のため、また民のために、あがないをしなければならぬ。二五 また罪祭の脂肪を祭壇の上で焼かなければならぬ。二六 かのやぎをアザセルに送った者は衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。その後、宿営に入ることが出来る。二七 聖所で、あがないをするために、その血を携え入れられた罪祭の雄牛と、罪祭のやぎとは、宿営の外に携え出し、その皮と肉と汚物とは、火で焼き捨てなければならぬ。二八 これを焼く者は衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。その後、宿営に入ることが出来る。

二九 これはあなたがたが永久に守るべき定めである。すなわち、七月になって、その月の十日に、あなたがたは身を悩まし、何の仕事もしてはならない。この国に生れた者も、あなたがたのうちに宿っている寄留者も、そうしなければならぬ。三〇 この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである。三一 これはあなたがたの全き休みの安息日であつて、あなたがたは身を悩まされなければならぬ。これは永久に守るべき定めである。三二 油を注がれ、父に代つて祭司の職に任じられる祭司は、亜麻布の衣服、すなわち、聖なる衣服を着て、あがないをしなければならぬ。三三 彼は至聖所のために、あがないをなし、また会見の幕屋のためと、祭壇のために、あがないをなし、また祭司たちのた

めと、民の全会衆のために、あがないをしなければならぬ。三四 これはあなたがたの永久に守るべき定めであつて、イスラエルの人々のもろもろの罪のために、年に一度あがないをするものである。

彼は主がモーセに命じられたとおりにおこなつた。

第一十七章 主はまたモーセに言われた、二アロ

ンとその子たち、およびイスラエルのすべての人々に言いなさい、『主が命じられることはこれである。すなわちイスラエルの家のだれでも、牛、羊あるいは、やぎを宿営の内ではふり、または宿営の外ではふり、四 それを会見の幕屋の入口に携えてきて主の幕屋の前で、供え物として主にささげないならば、その人は血を流した者とみなされる。彼は血を流したゆえ、その民のうちから断たれるであらう。五 これはイスラエルの人々に、彼らが野のおもてではふるのを常としていた犠牲を主のもとにひいてこさせ、会見の幕屋の入口におる祭司のもとにきて、これを主にささげる酬恩祭の犠牲としてほふらせるためである。六 祭司はその血を会見の幕屋の入口にある主の祭壇に注ぎかけ、またその脂肪を焼いて香ばしいかおりとし、主にささげなければならぬ。七 彼らが慕つて姦淫をおこなつたみだらな神に、再び犠牲をささげてはならない。これは彼らが代々なく守るべき定めである。八 あなたはまた彼らに言いなさい、『イスラエルの家の者、またはあなたがたのうちに宿る寄留者のだれでも、

燔祭あるいは犠牲をささげるのに、これを会見の幕屋の入口に携えてきて、主にささげないならば、その人は、その民のうちから断たれるであろう。

一〇イスラエルの家の者、またはあなたがたのうちに宿る寄留者のだれでも、血を食べるならば、わたしはその血を食べる人に敵して、わたしの顔を向け、これをその民のうちから断つてであらう。二肉の命は血にあるからである。あなたがたの魂のために祭壇の上で、あがないをするため、わたしはこれをあなたがたに与えた。血は命であるゆえに、あがないことができるからである。三このゆえに、わたしはイスラエルの人々に言った。あなたがたのうち、だれも血を食べてはならない。またあなたがたのうちに宿る寄留者も血を食べてはならない。三イスラエルの人々のうち、またあなたがたのうちに宿る寄留者のうち、だれでも、食べてもよい獣あるいは鳥を狩り獲た者は、その血を注ぎ出し、土でこれをおおわなければならない。

四すべて肉の命は、その血と一つだからである。それで、わたしはイスラエルの人々に言った。あなたがたは、どんな肉の血も食べてはならない。すべて肉の命はその血だからである。すべて血を食べる者は断たれるであらう。一五自然に死んだもの、または裂き殺されたものを食べる人は、国に生れた者であれ、寄留者であれ、その衣服を洗い、水に身をすすがなければならない。彼は夕ま

で汚れているが、その後、清くなるであらう。一六もし、洗わず、また身をすすがないならば、彼はその罪を負わなければならない。』

第一八章 一主はまたモーセに言われた、三イスラエルの人々に言いなさい、『わたしはあなたがたの神、主である。三あなたがたの住んでいたエジプトの国の習慣を見習ってはならない。またわたしがあなたがたを導き入れるカナンの国の習慣を見習ってはならない。また彼らの定めに歩んではならない。四わたしのおきてを行い、わたしの定めを守り、それに歩まなければならない。五わたしはあなたがたの神、主である。五あなたがたはわたしの定めとわたしのおきてを守らなければならない。もし人が、これを行うならば、これによって生きるであらう。わたしは主である。』

六あなたがたは、だれも、その肉親の者に近づいて、これを犯してはならない。わたしは主である。七あなたの母を犯してはならない。それはあなたの父をはずかしめることだからである。彼女があなたの母であるから、これを犯してはならない。八あなたの父の妻を犯してはならない。それはあなたの父をはずかしめることだからである。九あなたの姉妹、すなわちあなたの父の娘にせよ、母の娘にせよ、家に生れたのと、よそに生れたのとを問わず、これを犯してはならない。一〇あなたのむすこの娘、あるいは、あなたの娘の娘を犯してはならない。それは

あなた自身をはずかしめることだからである。二あなたの父の妻があなたの父によって産んだ娘は、あなたの姉妹であるから、これを犯してはならない。三あなたの父の姉妹を犯してはならない。彼女はあなたの父の肉親だからである。四またあなたの母の姉妹を犯してはならない。彼女はあなたの父の肉親だからである。五あなたの父の兄弟の妻を犯し、父の兄弟をはずかしめてはならない。六彼女はあなたのお嫁だからである。七あなたはあなたの妻を犯してはならない。彼女はあなたの妻であるから、これを犯してはならない。八あなたの兄弟の妻を犯してはならない。それはあなたの兄弟をはずかしめることだからである。九あなたは女とその娘とを一緒に犯してはならない。またその女のむすこの娘、またはその娘の娘を取って、これを犯してはならない。彼らはあなたの肉親であるから、これは悪事である。一〇あなたは妻のお生きているうちにその姉妹を取って、同じく妻となし、これを犯してはならない。

二九あなたは月のさわりの不浄にある女に近づいて、これを犯してはならない。三〇隣の妻と交わり、彼女によって身を汚してはならない。三一あなたの子どもをモレクにささげてはならない。またあなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。三二あなたは女と寝るように男と寝てはならない。これは憎むべきことである。三三あなたは獣と交わり、これによって身を汚してはならない。

また女も獣の前に立つて、これと交わってはならない。これは道にはずれたことである。

二四あなたがたはこれらのもろもろの事によって身を汚してはならない。わたしがあなたがたの前から追い払う国々の人は、これらのもろもろの事によって汚れ、五その地もまた汚れている。ゆえに、わたしはその悪のため、にこれを罰し、その地もまたその住民を吐き出すのである。六ゆえに、あなたがたはわたしの定めとわたしのおきてを守り、これらのもろもろの憎むべき事の一つでも行つてはならない。七国に生れた者も、あなたがたのうちに宿っている寄留者もそうである。八あなたがたの先にいたこの地の人々は、これらのもろもろの憎むべき事を行つたので、その地も汚れたからである。九これは、あなたがたがこの地を汚して、この地があなたがたの先にいた民を吐き出したように、あなたがたをも吐き出すことのないためである。一〇これらのもろもろの憎むべき事の一つでも行う者があれば、これを行う人は、だれでもその民のうちから断たれるであらう。一一それゆえに、あなたがたはわたしの言いつけを守り、先に行われたこれらの憎むべき風習の一つをも行つてはならない。またこれによって身を汚してはならない。わたしはあなたがたの神、主である。』

第一九章 一主はモーセに言われた、三イスラエルの人々の全会衆に言いなさい、『あなたがたの神、主な

るわたしは、聖であるから、あなたがたも聖でなければならぬ。三あなたがたは、おのおのその母とその父とおそれなければならぬ。またわたしの安息日を守らなければならぬ。わたしはあなたがたの神、主である。四むなしの神々に心を寄せてはならない。また自分のために神々を鑄て造つてはならない。わたしはあなたがたの神、主である。

五酬恩祭の犠牲を主にささげるときは、あなたがたが受け入れられるように、それをささげなければならぬ。六それは、ささげた日と、その翌日とに食べ、三日目まで残ったものは、それを火で焼かなければならぬ。七もし三日目に、少しでも食べるならば、それは忌むべきものとなって、あなたは受け入れられないであろう。八それを食べる者は、主の聖なる物を汚すので、そのとがを負わなければならぬ。その人は民のうちから断たれるであろう。

九あなたがたの地の実のりを刈り入れるときは、畑のすみずみまで刈りつくしてはならない。またあなたの刈入れの落ち穂を拾つてはならない。一〇あなたがたのぶどう畑の実を取りつくしてはならない。またあなたのぶどう畑に落ちた実を拾つてはならない。貧しい者と寄留者とのために、これを残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。

二あなたがたは盗んではならない。欺いてはならぬ

い。互に偽つてはならない。三わたしの名により偽り誓つて、あなたがたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。

三あなたがたの隣人をしえたげてはならない。また、かすめてはならない。日雇人の賃銀を明くる朝まで、あなたのもとにとどめておいてはならない。四耳しを、のろつてはならない。目しいの前につまずく物を置いてはならない。あなたの神を恐れなければならぬ。わたしは主である。

五さばきをするとき、不正を行つてはならない。貧しい者を片よつてかばい、力ある者を曲げて助けてはならない。ただ正義をもって隣人をさばかなければならない。六民のうちを巡り、人の悪口を言いふらしてはならない。あなたの隣人の血にかかわる偽証をしてはならない。わたしは主である。

七あなたは心に兄弟を憎んではならない。あなたの隣人をねんごろにいさめて、彼のゆえに罪を身に負つてはならない。八あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならぬ。わたしは主である。

九あなたがたはわたしの定めを守らなければならぬ。あなたの家畜に異なった種をかけてはならない。あなたの畑に二種の種をまいてはならない。二種の糸の混

ぜ織りの衣服を身につけてはならない。

二〇だれでも、人と婚約のある女奴隷で、まだあがなわれず、自由を与えられていない者と寝て交わったならば、彼らふたりは罰を受ける。しかし、殺されることはない。彼女は自由の女ではないからである。三しかし、その男は懲祭を主に携えてこなければならぬ。すなわち、懲祭の雄羊を、会見の幕屋の入口に連れてこなければならぬ。三そして、祭司は彼の犯した罪のためにその懲祭の雄羊をもって、主の前に彼のために、あがないをするであろう。こうして彼の犯した罪はゆるされるであろう。

二一あなたがたが、かの地にはいつて、もろもろのくだものの木を植えるときは、その実はまだ割礼をうけないものと、見なさなければならぬ。すなわち、それは三年の間あなたがたには、割礼のないものであつて、食べるにはならない。二四四年目には、そのすべての実を聖なる物とし、それをさんびの供え物として主にささげなければならぬ。二五しかし五年目には、あなたがたはその実を食べることができらるであろう。こうするならば、それはあなたがたのために、多くの実を結ぶであろう。わたしはあなたがたの神、主である。

二六あなたがたは何をも血のままで食べてはならない。また占いをしてはならない。魔法を行つてはならない。二七あなたがたのびんの毛を切つてはならない。ひげの両

端をそこつてはならない。二八死人のために身を傷つけてはならない。また身に入墨をしてはならない。わたしは主である。

二九あなたの娘に遊女のわざをさせて、これを汚してはならない。これはみだらな事が国に行われ、悪事が地に満ちないためである。三〇あなたがたはわたしの安息日を守り、わたしの聖所を敬わなければならぬ。わたしは主である。

三一あなたがたは口寄せ、または占い師のもとにおもむいてはならない。彼らに問うて汚されてはならない。わたしはあなたがたの神、主である。

三二あなたは白髪の人の前では、起立しなければならぬ。また老人を敬い、あなたの神を恐れなければならぬ。わたしは主である。

三三もし他国人があなたがたの国に寄留して共にいるならば、これをしえたげてはならない。三四あなたがたと共にいる寄留の他国人を、あなたがたと同じ国に生れた者のようにし、あなた自身のようにこれを愛さなければならぬ。あなたがたもかつてエジプトの国で他国人であつたからである。わたしはあなたがたの神、主である。

三五あなたがたは、さばきにおいても、物差しにおいても、はかりにおいても、ますにおいても、不正を行つてはならない。三六あなたがたは正しいてんびん、正しいおもり石、正しいエバ、正しいヒンを使わなければならぬ。

い。わたしは、あなたがたをエジプトの国から導き出したあなたがたの神、主である。三、あなたがたはわたしのすべての定めと、わたしのすべてのおきてを守って、これを行わなければならない。わたしは主である。』

第二〇章 一主はまたモーセに言われた、三イスラエルの人々に言いなさい、『イスラエルの人々のうち、またイスラエルのうちに寄留する他国人のうち、だれでもその子供をモレクにささげる者は、必ず殺されなければならない。すなわち、国の民は彼を石で撃たなければならない。三わたしは顔をその人に向け、彼を民のうちから断つであらう。彼がその子供をモレクにささげてわたしの聖所を汚し、またわたしの聖なる名を汚したからである。四その人が子供をモレクにささげるとき、国の民がもしことさらに、この事に目をおおい、これを殺さないならば、五わたし自身、顔をその人とその家族とに向け、彼および彼に見ならつてモレクを慕い、これと姦淫する者を、すべて民のうちから断つであらう。』

六もし口寄せ、または占いの師のもとにおもむき、彼らを慕つて姦淫する者があれば、わたしは顔をその人に向け、これを民のうちから断つであらう。七ゆえにあなたがたは、みずからを聖別し、聖なる者とならなければならない。八あなたがたはわたしの定めを守って、これを行わなければならない。九わたしはあなたがたを聖別する主である。九だれ

でも父または母をのろう者は、必ず殺されなければならない。彼が父または母をのろつたので、その血は彼に帰するであらう。』

二〇人の妻と姦淫する者、すなわち隣人の妻と姦淫する者があれば、その姦夫、姦婦は共に必ず殺されなければならない。二その父の妻と寝る者は、その父をはずかしめる者である。彼らはふたりとも必ず殺されなければならない。三その血は彼らに帰するであらう。三子の妻と寝る者は、ふたり共に必ず殺されなければならない。彼らは道ならぬことをしたので、その血は彼らに帰するであらう。三女と寝るように男と寝る者は、ふたりとも憎むべき事をしたので、必ず殺されなければならない。その血は彼らに帰するであらう。四女をその母と一緒にめとるならば、これは悪事であつて、彼も、女たちも火に焼かれなければならない。このような悪事をあなたがたのうちになくするためである。五男がもし、獣と寝るならば彼は必ず殺されなければならない。あなたがたはまた、その獣を殺さなければならない。六女がもし、獣に近づいて、これと寝るならば、あなたは、その女と獣とを殺さなければならない。彼らは必ず殺さるべきである。その血は彼らに帰するであらう。』

七人がもし、その姉妹、すなわち父の娘、あるいは母の娘に近づいて、その姉妹のはだを見、女はその兄弟のはだを見るならば、これは恥すべき事である。彼らは、

その民の人々の目の前で、断たなければならぬ。彼らは、その姉妹を犯したのであるから、その罪を負わなければならぬ。一八人がもし、月のさわりのある女と寝て、そのはだを現すならば、男は女の源を現し、女は自分の血の源を現したのであるから、ふたり共にその民のうちから断たなければならぬ。一九あなたの母の姉妹、あなたはあなたの父の姉妹を犯してはならない。これは、自分の肉身の者を犯すことであるから、彼らはその罪を負わなければならぬ。二〇人がもし、そのおばと寝るならば、これはおじをはずかしめることであるから、彼らはその罪を負い、子なくして死ぬであろう。二一人がもし、その兄弟の妻を取るならば、これは汚らわしいことである。彼はその兄弟をはずかしめたのであるから、彼らは子なき者となるであろう。

三あなたがたはわたしの定めとおきてとをことごとく守って、これを行わなければならぬ。そうすれば、わたしがあなたがたを住まわせようと導いて行く地は、あなたがたを吐き出さぬであろう。三三あなたがたの前からわたしが追い払う国びとの風習に、あなたがたは歩んではならない。彼らは、このもろもろのことをしたから、わたしは彼らを憎むのである。三四わたしはあなたがたに言った、「あなたがたは、彼らの地を獲得であろう。わたしはこれをあなたがたに与えて、これを獲させるであろう。これは乳と蜜との流れる地である」。わたしはあなたが

たを他の民から区別したあなたがたの神、主である。三五あなたがたは清い獣と汚れた獣、汚れた鳥と清い鳥を区別しなければならぬ。わたしがあなたがたのために汚れたものとして区別した獣、または鳥またはすべて地に這うものによって、あなたがたの身を忌むべきものとしてはならない。三六あなたがたはわたしに対して聖なる者でなければならぬ。主なるわたしは聖なる者で、あなたがたをわたしのものにしようと、他の民から区別したからである。

三七男または女で、口寄せ、または占いをする者は、必ず殺されなければならない。すなわち、石で撃ち殺さなければならない。その血は彼らに帰するであろう。』
第二章 一主はまたモーセに言われた、「アロンの子なる祭司たちに告げて言いなさい、『民のうちの死人のために、身を汚す者があつてはならない。こただし、近親の者、すなわち、父、母、むすこ、娘、兄弟のために、また彼の近親で、まだ夫のない処女なる姉妹のために、は、その身を汚してもよい。四しかし、夫にとついで姉妹のために、身を汚してはならない。五彼らは頭の頂をそってはならない。ひげの両端をそり落してはならない。六また身に傷をつけてはならない。七彼らは神に對して聖でなければならぬ。また神の名を汚してはならない。八彼らは主の火祭、すなわち、神の食物をささげる者であるから、聖でなければならぬ。七彼らは遊女や汚

れた女をめとつてはならない。また夫に出された女をめとつてはならない。祭司は神に対して聖なる者だからである。八あなたは彼を聖としなければならぬ。彼はあなたの神の食物をささげる者だからである。彼はあなたにとつて聖なる者でなければならぬ。あなたがたを聖とする主、すなわち、わたしは聖なる者だからである。九祭司の娘である者が、淫行をなして、その身を汚すならば、その父を汚すのであるから、彼女を火で焼かなければならない。

一〇その兄弟のうち、頭に注ぎ油を注がれ、職に任ぜられて、その衣服をつけ、大祭司となつた者は、その髪の毛を乱してはならない。またその衣服を裂いてはならない。二死人のところに、はいつてはならない。また父のために母のためにも身を汚してはならない。三また聖所から出てはならない。神の聖所を汚してはならない。その神の注ぎ油による聖別が、彼の上にあるからである。わたしは主である。四彼は処女を妻にめとらなければならぬ。一五寡婦、出された女、汚れた女、遊女などをめとつてはならない。ただ、自分の民のうちの処女を、妻にめとらなければならぬ。一六そうすれば、彼は民のうちに、自分の子孫を汚すことはない。わたしは彼を聖別する主だからである。』

一七主はまたモーセに言われた、一八「アロンに告げて言いなさい、『あなたの代々の子孫で、だれでも身にきず

のある者は近寄つて、神の食物をささげてはならない。一八すべて、その身にきずのある者は近寄つてはならない。すなわち、目しい、足なえ、鼻のかけた者、手足の不つりあいの者、一九足の折れた者、手の折れた者、二〇せむし、こびと、目にきずのある者、かいせんの者、かさぶたのある者、こうがんのつぶれた者などである。二三すべて祭司アロンの子孫のうち、身にきずのある者は近寄つて、主の火祭をささげてはならない。彼は身にきずがあるから、神の食物をささげるために、近寄つてはならない。二三彼は神の食物の聖なる物も、最も聖なる物も食べることはできない。二四ただし、垂幕に近づいてはならない。また祭壇に近寄つてはならない。身にきずがあるからである。彼はわたしの聖所を汚してはならない。わたしはそれを聖別する主である。』二五モーセはこれをアロンとその子ら及びイスラエルのすべての人々に告げた。

第二二章 一主はまたモーセに言われた、二「アロンとその子たちに告げて、イスラエルの人々の聖なる物、すなわち、彼らがわたしにささげる物をみだりに用いて、わたしの聖なる名を汚さないようにさせなさい。わたしは主である。三彼らに言いなさい、『あなたがたの代々の子孫のうち、だれでも、イスラエルの人々が主にささげる聖なる物に、汚れた身をもつて近づく者があれば、その人はわたしの前から断たれるであらう。わたしは主である。四アロンの子孫のうち、だれでも、らい病の者、

また流出ある者は清くなるまで、聖なる物を食べてはならない。また、すべて死体によって汚れた物に触れた者、精を漏らした者、^五または、すべて人を汚す這うもの、に触れた者、または、どのような汚れにせよ、人を汚れさせる人に触れた者、^六このようなものに触れた人は夕まで汚れるであらう。彼はその身を水にすすがなければならない。聖なる物を食べてはならない。^七日が入れば、彼は清くなるであらう。そののち、聖なる物を食べることができ。それは彼の食物だからである。^八自然に死んだもの、または裂き殺されたものを食べ、それによって身を汚してはならない。わたしは主である。^九それゆえに、彼らはわたしの言いつけを守らなければならない。彼らがこれを汚し、これがために、罪を獲て死ぬことのないためである。わたしは彼らを聖別する主である。

^{一〇}すべて一般の人は聖なる物を食べてはならない。祭司の同居人や雇人も聖なる物を食べてはならない。しかし、祭司が金をもって人を買った時は、その者はこれを食べることができ。またその家に生れた者も祭司の食物を食べることができ。^三もし祭司の娘が一般の人にとついだならば、彼女は聖なる供え物を食べてはならない。^三もし祭司の娘が、寡婦となり、または出されて、子供もなく、その父の家に帰り、娘の時のようであれば、その父の食物を食べることができる。ただし、一般の人は、すべてこれを食べてはならない。^四もし人があや

まって聖なる物を食べるならば、それにその五分の一を加え、聖なる物としてこれを祭司に渡さなければならぬ。^五祭司はイスラエルの人々が、主にささげる聖なる物を汚してはならない。^六人々が聖なる物を食べて、その罪のとがを負わないようにさせなければならぬ。わたしは彼らを聖別する主である。

^七主はまたモーセに言われた、^八「アロンとその子たち、およびイスラエルのすべての人々に言いなさい、『イスラエルの家の者、またはイスラエルにおける他国人のうちのだれでも、誓願の供え物、または自発の供え物を燔祭として主にささげようとするならば、^九あなたがたの受け入れられるように牛、羊、あるいはやぎの雄の全きものをささげなければならない。^{一〇}すべてきずのあるものはささげてはならない。それはあなたがたのために、受け入れられないからである。^{一一}もし人が特別の誓願をなすため、または自発の供え物のために、牛または羊を酬恩祭の犠牲として、主にささげようとするならば、その受け入れられるために、それは全きものでなければならぬ。それには、どんなきずもあってはならない。^{一二}すなわち獣のうちで、めくらのもの、折れた所のあるもの、切り取った所のあるもの、うみの出る者、かいせんの者、かさぶたのある者など、あなたがたは、このようなものを主にささげてはならない。また祭壇の上に、これらを火祭として、主にささげてはならない。^{一三}牛あるいは羊

で、足の長すぎる者、または短すぎる者は、あなたがたが自発の供え物とすることはできるが、誓願の供え物としては受け入れられないであろう。三あなたかたは、こゝうがんの破れたもの、つぶれたもの、裂けたもの、または切り取られたものを、主にささげてはならない。またあなたがたの国のうちで、このようなことを、行つてはならない。五また、あなたがたは異邦人の手からこれらのものを受けて、あなたがたの神の食物としてささげてはならない。これらのものには欠点があり、きずがあつて、あなたがたのために受け入れられないからである。』

二六主はまたモーセに言われた、二七牛、または羊、またはやぎが生れたならば、これを七日の間その母親のもとに置かなければならない。八日目からは主にささげる火祭として受け入れられるであろう。二八あなたがたは雌牛または雌羊をその子と同じ日にほふてはならない。二九あなたがたが感謝の犠牲を主にささげるときは、あなたがたの受け入れられるようにささげなければならぬ。三〇これはその日のうちに食べなければならぬ。明くる日まで残しておいてはならない。わたしは主である。

三あなたがたはわたしの戒めを守り、これを行わなければならぬ。わたしは主である。三二あなたがたはわたしの聖なる名を汚してはならない。かえつて、わたしはイスラエルの人々のうちに聖とされなければならぬ。

わたしはあなたがたを聖別する主である。三三あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの国から導き出した者である。わたしは主である。』

第二三章 一主はまたモーセに言われた、二イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたが、ふれ示して聖会とすべき主の定め祭は次のとおりである。これらはわたしの定め祭である。三六日の間は仕事をしなければならぬ。第七日は全き休みの安息日であり、聖会である。どのような仕事もしてはならない。これはあなたがたのすべてのすまいにおいて守るべき主の安息日である。』

四その時々、あなたがたが、ふれ示すべき主の定め祭なる聖会は次のとおりである。五正月の十四日の夕は主の過越祭である。六またその月の十五日は主の種入れぬパンの祭である。あなたがたは七日の間は種入れぬパンを食べなければならぬ。七その初めの日に聖会を開かなければならぬ。どんな労働もしてはならない。八あなたがたは七日の間、主に火祭をささげなければならぬ。第七日には、また聖会を開き、どのような労働もしてはならない。』

九主はまたモーセに言われた、一〇イスラエルの人々に言いなさい、『わたしと与ふる地にはいつて穀物を刈り入れるとき、あなたがたは穀物の初穂の束を、祭司のところに携えてこなければならぬ。二彼はあなたがたの受

け入れられるように、その束を主の前に揺り動かすであらう。すなわち、祭司は安息日の翌日に、これを揺り動かすであらう。三またその束を揺り動かす日に、一歳の雄の小羊の全きものを燔祭として主にささげなければならぬ。三その素祭には油を混ぜた麦粉十分の二エバを用い、これを主にささげて火祭とし、香ばしいかおりとしなければならぬ。またその灌祭には、ぶどう酒一ヒンの四分の一を用いなければならぬ。四あなたがたの神にこの供え物をささげるその日まで、あなたがたはパンも、焼麦も、新穀も食べてはならない。これはあなたがたのすべてのすまいにおいて、代々ながく守るべき定めである。

五また安息日の翌日、すなわち、揺祭の束をささげた日から満七週を数えなければならぬ。六すなわち、第七の安息日の翌日まで、五十日を数えて、新穀の素祭を主にささげなければならぬ。七またあなたがたのすまいから、十分の二エバの麦粉に種を入れて焼いたパン二個を携えてきて揺祭としなければならぬ。これは初穂として主にささげるものである。八あなたがたはまたパンのほか、一歳の全き小羊七頭と、若き雄牛一頭と、雄羊二頭をささげなければならぬ。すなわち、これらをその素祭および灌祭とともに主にささげて燔祭としなければならぬ。これは火祭であって、主に香ばしいかおりとなるであらう。九また雄やぎ一頭を罪祭としてさ

さげ、一歳の小羊二頭を酬恩祭の犠牲としてささげなければならぬ。二そして祭司はその初穂のパンと共に、この二頭の小羊を主の前に揺祭として揺り動かさなければならぬ。これらは主にささげる聖なる物であって、祭司に帰するであらう。三あなたがたは、その日にふれ示して、聖会を開かなければならぬ。どのような労働もしてはならない。これはあなたがたのすべてのすまいにおいて、代々ながく守るべき定めである。

三あなたがたの地の穀物を刈り入れるときは、その刈入れにあたって、畑のすみずみまで刈りつくしてはならない。またあなたがたの穀物の落ち穂を拾ってはならない。貧しい者と寄留者のために、それを残しておかなければならぬ。わたしはあなたがたの神、主である。』

三主はまたモーセに言われた、二四「イスラエルの人々に言いなさい、『七月一日をあなたがたの安息の日とし、ラッパを吹き鳴らして記念する聖会としなければならぬ。』二五どのような労働もしてはならない。しかし、主に火祭をささげなければならぬ。』

二六主はまたモーセに言われた、二七「特にその七月の十日は贖罪の日である。あなたがたは聖会を開き、身を悩まし、主に火祭をささげなければならぬ。二八その日には、どのような仕事もしてはならない。これはあなたがたのために、あなたがたの神、主の前にあがないをなすべき贖罪の日だからである。二九すべてその日に身を悩ま

さなひ者は、民のうちから断たれるであらう。三〇またすべてその日にどのような仕事をして、その人をわたしは民のうちから滅ぼし去るであらう。三一あなたがたはどのような仕事もしてはならない。これはあなたがたのすべてのすまいにおいて、代々ながく守るべき定めである。三二これはあなたがたの全き休みの安息日である。あなたがたは身を悩まさない。またその月の九日の夕には、その夕から次の夕まで安息を守らなければならない。

三三主はまたモーセに言われた、三四「イスラエルの人々に言いなさい、『その七月の十五日は仮庵の祭である。七日の間、主の前にそれを守らなければならない。三五初めの日に聖会を開かなければならない。どのような労働もしてはならない。三六また七日の間、主に火祭をささげなければならぬ。八日目には聖会を開き、主に火祭をささげなければならない。これは聖会の日であるから、どのような労働もしてはならない。』」

三七これらは主の定め祭であつて、あなたがたがふれ示して聖会とし、主に火祭すなわち、燔祭、素祭、犠牲および灌祭を、そのささぐべき日にささげなければならぬ。三八このほかに主の安息日があり、またほかに、あなたがたのささげ物があり、またほかに、あなたがたの誓願の供え物があり、またそのほかに、あなたがたの自発の供え物がある。これらは皆あ

なたがたが主にささげるものである。

三九あなたがたが、地の産物を集め終つたときは、七月の十五日から七日のあいだ、主の祭を守らなければならない。すなわち、初めの日にも安息をし、八日目にも安息をしなければならない。四〇初めの日に、美しい木の實と、なつめやしの枝と、茂つた木の枝と、谷のはこやなぎの枝を取つて、七日の間あなたがたの神、主の前に樂しまなければならない。四一あなたがたは年に七日の間、主にこの祭を守らなければならない。これはあなたがたの代々ながく守るべき定めであつて、七月にこれを守らなければならない。四二あなたがたは七日の間、仮庵に住み、イスラエルで生れた者はみな仮庵に住まなければならない。四三これはわたしがイスラエルの人々をエジプトの国から導き出したとき、彼らを仮庵に住まわせた事を、あなたがたの代々の子孫に知らせるためである。わたしはあなたがたの神、主である。』

四四モーセは主の定め祭をイスラエルの人々に告げた。

第二四章

一主はまたモーセに言われた、二「イスラエルの人々に命じて、オリブを砕いて採つた純粹の油を、ともしびのためにあなたの所へ持つてこさせ、絶えずともしびをともしせなさい。三すなわち、アロンは会見の幕屋のうちのあかしの垂幕の外で、夕から朝まで絶えず、そのともしびを主の前に整えなければならない。

これはあなたがたが代々ながく守るべき定めである。彼は純金の燭台の上に、そのともしびを絶えず主の前に整えなければならぬ。

五 あなたは麦粉を取り、それで十二個の菓子焼かなければならぬ。菓子一個に麦粉十分の二エバを用いなければならぬ。六 そしてそれを主の前の純金の机の上に、ひと重ね六個ずつ、ふた重ねにして置かなければならぬ。七 あなたはまた、おのおのの重ねの上に、純粋の乳香を置いて、そのパンの記念の分とし、主にささげて火祭としなければならぬ。八 安息日ごとに絶えず、これを主の前に整えなければならぬ。これはイスラエルの人々のささぐべきものであつて、永遠の契約である。九 これはアロンとその子たちに帰する。彼らはこれを聖なる所で食べなければならぬ。これはいと聖なる物であつて、主の火祭のうち彼に帰すべき永久の分である。

一〇 イスラエルの女を母とし、エジプトびとを父とするひとりの者が、イスラエルの人々のうちに出てきて、そのイスラエルの女の産んだ子と、ひとりのイスラエルびとが宿営の中で争いをし、二 そのイスラエルの女の産んだ子が主の名を汚して、のろつたので、人々は彼をモーセのもとに連れてきた。その母はダンの部族のデブリの娘で、名をシロミテといった。三人々は彼を閉じ込めて置いて、主の示しを受けるのを待っていた。

二三 時に主はモーセに言われた、一四「あの、のろいごと

を言つた者を宿営の外に引き出し、それを聞いた者に、みな手を彼の頭に置かせ、全会衆に彼を石で撃たせなさい。二五 あなたはまたイスラエルの人々に言いなさい、『だれでも、その神をのろう者は、その罪を負わなければならない。二六 主の名を汚す者は必ず殺されるであらう。全会衆は必ず彼を石で撃たなければならない。他国の者でも、この国に生れた者でも、主の名を汚すときは殺されなければならない。二七 だれでも、人を撃ち殺した者は、必ず殺されなければならない。二八 獣を撃ち殺した者は、獣をもつてその獣を償わなければならない。二九 もし人が隣人に傷を負わせるなら、その人は自分がしたように自分にされなければならない。三〇 すなわち、骨折には骨折、目には目、歯には歯をもつて、人に傷を負わせたように、自分にもされなければならない。三一 獣を撃ち殺した者はそれを償い、人を撃ち殺した者は殺されなければならない。三二 他国の者にも、この国に生れた者にも、あなたがたは同一のおきてを用いなければならない。わたしはあなたがたの神、主だからである』。三三 モーセがイスラエルの人々に向かい、「あの、のろいごとを言つた者を宿営の外に引き出し、石で撃て」と命じたので、イスラエルの人々は、主がモーセに命じられたようにした。

第二十五章 「主はシナイ山で、モーセに言われた、三三 イスラエルの人々に言いなさい、『わたしが与える地に、あなたがたがはいったときは、その地にも、主に向

かつて安息を守らせなければならぬ。^三六年の間あなたは畑に種をまき、また六年の間どう畑の枝を刈り込み、その実を集めることができる。^四しかし、七年目には、地に全き休みの安息を与えなければならぬ。これは、主に向かつて守る安息である。あなたは畑に種をまいてはならない。また、どう畑の枝を刈り込んではない。^五あなたの穀物の自然に生えたものは刈り取つてはならない。また、あなたのぶどうの枝の手入れをしないで結んだ実は摘んではならない。これは地のために全き休みの年だからである。^六安息の年の地の産物は、あなたがたの食物となるであらう。すなわち、あなたと、男女の奴隷と、雇人と、あなたの所に宿っている他国人と、^七あなたの家畜と、あなたの国のうちの獣とのために、その産物はみな、食物となるであらう。

^八あなたは安息の年を七たび、すなわち、七年を七回数えなければならぬ。安息の年七たびの年数は四十九年である。^九七月の十日にあなたはラツパの音を響き渡らせなければならぬ。すなわち、贖罪の日にあなたがたは全国にラツパを響き渡らせなければならぬ。^{一〇}その五十年目を聖別して、国中のすべての住民に自由をふれ示さなければならぬ。この年はあなたがたにはヨベルの年であつて、あなたがたは、おのおのその所有の地に帰り、おのおのその家族に帰らなければならぬ。^二その五十年目はあなたがたにはヨベルの年である。種

をまいてはならない。また自然に生えたものは刈り取つてはならない。手入れをしないで結んだぶどうの実は摘んではならない。^三この年はヨベルの年であつて、あなたがたに聖であるからである。あなたがたは畑に自然にできた物を食べなければならぬ。

^四このヨベルの年には、おのおのその所有の地に帰らなければならぬ。^五あなたの隣人に物を売り、また隣人から物を買うときは、互に欺いてはならない。^六ヨベルの後の年の数にしたがつて、あなたは隣人から買い、彼もまた畑の産物の年数にしたがつて、あなたに売らなければならぬ。^七年の数の多い時は、その値を増し、年の数の少ない時は、値を減らさなければならぬ。彼があなたに売るのは産物の数だからである。^八あなたがたは互に欺いてはならない。あなたの神を恐れなければならぬ。わたしはあなたがたの神、主である。

^九あなたがたはわたしの定めを行い、またわたしのおきてを守つて、これを行わなければならぬ。そうすれば、あなたがたは安らかにその地に住むことができるであらう。^{一〇}地はその実を結び、あなたがたは飽きるまでそれを食べ、安らかにそこに住むことができるであらう。^{一一}七年目に種をまくことができず、また産物を集めることができなければ、わたしたちは何を食べようか」とあなたがたは言うのか。^{一二}わたしは命じて六年目に、あなたがたに祝福をくだし、三か年分の産物を実ら

せるであろう。二三あなたがたは八年目に種をまく時には、なお古い産物を食べているであろう。九年目にその産物のできるまで、あなたがたは古いものを食べる事ができるであろう。二三地は永代には売ってはならない。地はわたしのものである。あなたがたはわたしと共にいる寄留者、また旅びとである。三四あなたがたの所有としたどのような土地でも、その土地の買いもどしに應じなければならぬ。

三五あなたの兄弟が落ちぶれてその所有の地を売った時は、彼の近親者がきて、兄弟の売ったものを買いもどさなければならぬ。二六たといその人に、それを買いもどしてくれる人がいなくても、その人が富み、自分でそれを買いもどすことができるようになったならば、二七それを売ってからの年を数えて残りの分を買い手に返さなければならぬ。そうすればその人はその所有の地に帰ることがができる。二八しかし、もしそれを買いもどすことができるなら、その売った物はヨベルの年まで買い主の手にあり、ヨベルにはもどされて、その人はその所有の地に帰ることができよう。

二九人が城壁のある町の住宅を売った時は、売ってから満一年の間は、それを買いもどすことができる。その間は彼に買いもどすことを許さなければならぬ。三〇満一年のうちに、それを買いもどさない時は、城壁のある町の内のその家は永代にそれを買った人のものと定まっ

て、代々の所有となり、ヨベルの年にももどされないのである。三二しかし、周囲に城壁のない村々の家は、その地方の畑に附属するものとみなされ、買いもどすことができる。またヨベルの年には、もどされるであろう。三三レビびとの町々、すなわち、彼らの所有の町々の家は、レビびとはいつでも買いもどすことができる。三三レビびとのひとり、それを買いもどさない時は、その所有の町にある売った家はヨベルの年にはもどされるであろう。レビびとの町々の家はイスラエルの人々のうちに彼らがついてくる所有だからである。三四ただし、彼らの町々の周囲の放牧地は売ってはならない。それは彼らの永久の所有だからである。

三五あなたの兄弟が落ちぶれ、暮して行けない時は、彼を助け、寄留者または旅びとのようにして、あなたと共に生きながらえさせなければならぬ。三六彼から利子も利息も取ってはならない。あなたの神を恐れ、あなたの兄弟をあなたと共に生きながらえさせなければならぬ。三七あなたは利子を取って彼に金を貸してはならない。また利益を与えるために食物を貸してはならない。三八わたしはあなたがたの神、主であって、カナンの人々をあなたがたに与え、かつあなたがたの神となるためにあなたがたをエジプトの国から導き出した者である。

三九あなたがたの兄弟が落ちぶれて、あなたに身を売るときは、奴隷のように働かせてはならない。四〇彼を雇人の

ように、また旅びとのようにしてあなたの所におらせ、ヨベルの年まであなたの所で勤めさせなさい。四二その時には、彼は子供たちと共にあなたの所から出て、その一族のもとに帰り、先祖の所有の地にもどるであらう。四三彼らはエジプトの国からわたしが導き出したわたしのしもべであるから、身売って奴隷となつてはならない。四四あなたは彼をきびしく使つてはならない。あなたの神を恐れなければならぬ。四五あなたがもつ奴隷は男女ともにああなたの周囲の異邦人のうちから買わなければならぬ。すなわち、彼らのうちから男女の奴隷を買ふべきである。四六また、あなたがたのうちに宿っている旅びとの子供のうちからも買ふことができる。また彼らのうちあなたがたの国で生れて、あなたがたと共にいる人々の家族からも買ふことができる。そして彼らはあなたがたの所有となるであらう。四七あなたがたは彼らを獲て、あなたがたの後の子孫に所有として継がせることができる。すなわち、彼らは長くあなたがたの奴隷となるであらう。しかし、あなたがたの兄弟であるイスラエルの人をあなたがたは互にきびしく使つてはならない。四八あなたがたと共にいる寄留者または旅びとが富み、そのかたわらにゐるあなたの兄弟が落ちぶれて、あなたがたと共にいるその寄留者、旅びと、または寄留者の一族のひとりに身売った場合、四九身売った後でも彼を買ひもどすことができる。その兄弟のひとりが彼を買ひもどさな

ければならない。五〇あるいは、おじ、または、おじの子が彼を買ひもどさなければならぬ。あるいは一族の近親の者が、彼を買ひもどさなければならぬ。あるいは自分に富ができたならば、自分で買ひもどさなければならぬ。五一その時、彼は自分の身売った年からヨベルの年までを、その買主と共に数え、その年数によつて、身の代金を決めなければならぬ。その年数は雇われた年数として数えなければならぬ。五二なお残りの年が多い時は、その年数にしたがい、買われた金額に照して、あがないの金を払わなければならぬ。五三またヨベルの年までに残りの年が少なければ、その人と共に計算し、その年数にしたがつて、あがないの金を払わなければならぬ。五四彼は年々雇われる人のように扱われなければならぬ。あなたがたの目の前で彼をきびしく使わしてはならない。五五もし彼がこのようにしてあがなわれなければならぬ。五五ヨベルの年に彼は子供と共に出て行くことができる。五五イスラエルの人々は、わたしのしもべだからである。彼らはわたしがエジプトの国から導き出したわたしのしもべである。わたしはあなたがたの神、主である。第二十六章 「あなたがたは自分のために、偶像を造つてはならない。また刻んだ像も石の柱も立ててはならない。またあなたがたの地に石像を立てて、それを拝んではいけません。わたしはあなたがたの神、主だからである。二あなたがたはわたしの安息日を守り、またわた

しの聖所を敬わなければならぬ。わたしは主である。
 三もしあなたがたがわたしの定めに歩み、わたしの戒めを守って、これを行なうならば、四わたしはその季節季節に、雨をあなたがたに与えるであろう。地は産物を出し、畑の木々は実を結ぶであろう。五あなたがたの麦打ち、ぶどうの取入れの時まで続き、ぶどうの取入れは、種まきの時まで続くであろう。あなたがたは飽きるほどパンを食べ、またあなたがたの地に安らかに住むであろう。六わたしが国に平和を与えるから、あなたがたは安らかに寝ることができ、あなたがたを恐れさすものはないであろう。わたしはまた国のうちから悪い獣を絶やすであろう。つるぎがあなたがたの国を行き巡ることはないのである。七あなたがたは敵を追うであろう。彼らは、あなたがたのつるぎに倒れるであろう。八あなたがたの五人は百人を追ひ、百人は万人を追ひ、あなたがたの敵はつるぎに倒れるであろう。九わたしはあなたがたを顧み、多くの子を獲得させ、あなたがたを増し、あなたがたと結んだ契約を固めるであろう。一〇あなたがたは古い穀物を食べている間に、また新しいものを獲て、その古いものを捨てるようになるであろう。二わたしは幕屋をあなたがたのうちに建て、心にあなたがたを忌みきらわないであろう。三わたしはあなたがたのうちに歩み、あなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となるであろう。四わたしはあなたがたの神、主であって、あなた

がたをエジプトの国から導き出して、奴隷の身分から解放した者である。わたしはあなたがたのくびきの横木を砕いて、まっすぐに立つて歩けるようにしたのである。
 一四しかし、あなたがたがもしわたしに聞き従わず、またこのすべての戒めを守らず、一五わたしの定めを軽んじ、心にわたしのおきてを忌みきらって、わたしのすべての戒めを守らず、わたしの契約を破るならば、一六わたしはあなたがたにこのようにするであろう。すなわち、あなたがたの上に恐怖を臨ませ、肺病と熱病をもつて、あなたがたの目を見えなくし、命をやせ衰えさせるであろう。あなたがたが種をまいてもむだである。敵がそれを食べるであろう。一七わたしは顔をあなたがたにむけて攻め、あなたがたは敵の前に撃ちひしがれるであろう。またあなたがたの憎む者があなたがたを治めるであろう。あなたがたは追う者もないのに逃げるであろう。一八それでもなお、あなたがたがわたしに聞き従わないならば、わたしはあなたがたの罪を七倍重く罰するであろう。一九わたしはあなたがたの誇とする力を砕き、あなたがたの天を鉄のようにし、あなたがたの地を青銅のようにするであろう。二〇あなたがたの力は、むだに費されるであろう。すなわち、地は産物をいささず、国のうちの木々は実を結ばないであろう。
 二一もしあなたがたがわたしに逆らって歩み、わたしに聞き従わないならば、わたしはあなたがたの罪に従って

七倍の災をあなたがたに下すであろう。三わたしはまた野獸をあなたがたのうちに送るであろう。それはあなたがたの子供を奪い、また家畜を滅ぼし、あなたがたの数を少なくするであろう。あなたがたの大路は荒れ果てるであろう。

三もしあなたがたがこれらの懲らしめを受けてもなお改めず、わたしに逆らって歩むならば、四わたしもまたあなたがたに逆らって歩み、あなたがたの罪を七倍重く罰するであろう。五わたしはあなたがたの上につるぎを臨ませ、違約の恨みを報いるであろう。あなたがたが町町に集まる時は、あなたがたのうちに疫病を送り、あなたがたは敵の手にわたされるであろう。六わたしがあなたがたのつえとするパンを砕くとき、十人の女が一つのかまどでパンを焼き、それをはかりにかけてあなたがたに渡すであろう。あなたがたは食べても満たされないであろう。

七それでもなお、あなたがたがわたしに聞き従わず、わたしに逆らって歩むならば、八わたしもあなたがたに逆らい、怒りをもって歩み、あなたがたの罪を七倍重く罰するであろう。九あなたがたは自分のむすこの肉を食べ、また自分の娘の肉を食べるであろう。十わたしはあなたがたの高き所をこぼち、香の祭壇を倒し、偶像の死体の上に、あなたがたの死体を投げ捨てて、わたしは心にあなたがたを忌みきらうであろう。三わたしはまたあ

なたがたの町々を荒地とし、あなたがたの聖所を荒らすであろう。またわたしはあなたがたのささげる香ばしいかおりをかがないであろう。三わたしがその地を荒らすゆえ、そこに住むあなたがたの敵はそれを見て驚くであろう。三わたしはあなたがたを国々の間に散らし、つるぎを抜いて、あなたがたの後を追うであろう。あなたがたの地は荒地果て、あなたがたの町々は荒地地となるであろう。

三こうしてその地が荒地果てて、あなたがたは敵の国にある間、地は安息を樂しむであろう。すなわち、その時、地は休みを得て、安息を樂しむであろう。三それは荒地果てている日の間、休むであろう。あなたがたがそこに住んでいる間、あなたがたの安息のときに休みを得なかつたものである。三またあなたがたのうちの残っている者の心に、敵の国でわたしは恐れをいだかせるであろう。彼らは木の葉の動く音にも驚いて逃げ、つるぎを避けて逃げる者のように逃げて、追う者もないのにころび倒れるであろう。三彼らは追う者もないのに、つるぎをのがれる者のように折り重なって、つまずき倒れるであろう。あなたがたは敵の前に立つことができないであろう。三あなたがたは国々のうちにあつて滅びうせ、あなたがたの敵の地はあなたがたをのみつくすであろう。三あなたがたのうちの残っている者は、あなたがたの敵の地で自分の罪のゆえにやせ衰え、また先祖たちの罪の

ゆえに彼らと同じようにやせ衰えるであろう。

四〇しかし、彼らがもし、自分の罪と、先祖たちの罪、すなわち、わたしに反逆し、またわたしに逆らって歩んだことを告白するならば、四一たといわたしは彼らに逆らって歩み、彼らを敵の国に引いて行っても、もし彼らの無割礼の心が砕かれ、あまんじて罪の罰を受けるならば、四二そのときわたしはヤコブと結んだ契約を思い起し、またイサクと結んだ契約およびアブラハムと結んだ契約を思い起し、またその地を思い起すであろう。四三しかし、彼らが地を離れて地が荒れ果てている間、地はその安息を樂しむであろう。彼らはまた、あまんじて罪の罰を受けるのである。彼らがわたしのおきてを輕んじ、心にわたしの定めを忌みきらったからである。四四それにもかかわらず、なおわたしは彼らが敵の国におるとき、彼らを捨てず、また忌みきらわず、彼らを滅ぼし尽さず、彼らと結んだわたしの契約を破ることをしないであろう。わたしは彼らの神、主だからである。四五わたしは彼らの先祖たちと結んだ契約を彼らのために思い起すであろう。彼らはわたしとその神となるために国々の人の目の前で、エジプトの地から導き出した者である。わたしは主である。

四六これらは主が、シナイ山で、自分とイスラエルの人との間に、モーセによって立てられた定めと、おきてと、律法である。

第二章 一主はモーセに言われた、二「イスラエ

ルの人々に言いなさい、『人があなたの値積りに従って主に身をささげる誓願をする時は、三あなたの値積りは、二十歳から六十歳までの男には、その値積りを聖所のシケルに従って銀五十シケルとし、四女には、その値積りは三十シケルとしなければならない。五また五歳から二十歳までは、男にはその値積りを二十シケルとし、女には十シケルとしなければならない。六一か月から五歳までは、男にはその値積りを銀五シケルとし、女にはその値積りを銀三シケルとしなければならない。七また六十歳以上は、男にはその値積りを十五シケルとし、女には十シケルとしなければならない。八もしその人が貧しくて、あなたの値積りに応じることができないならば、祭司の前に立ち、祭司の値積りを受けなければならない。祭司はその誓願者の力に従って値積らなければならない。九主に供え物とすることができ家畜で、人が主にさ

さげるものはすべて聖なる物となる。一〇ほかのものをそれに代用してはならない。良い物を悪い物に、悪い物を良い物に取り換えてはならない。もし家畜と家畜とを取り換えるならば、その物も、それと取り換えた物も共に聖なる物となるであろう。二もしそれが汚れた家畜で、主に供え物としてささげられないものであるならば、その人はその家畜を祭司の前に引いてこなければならぬ。三祭司はその良い悪いに従って、それを値積らなけ

ればならない。それは祭司が値積るとおりになるであらう。二三もしその人が、それをあがなおうとするならば、その値積りにその五分の一を加えなければならぬ。

二四もし人が自分の家を主に聖なる物としてささげるときは、祭司はその良い悪いに従って、それを値積らなければならぬ。それは祭司が値積ったとおりになるであらう。二五もしその家をささげる人が、それをあがなおうとするならば、その値積りの金に、その五分の一を加えなければならぬ。そうすれば、それは彼のものとなるであらう。

二六もし人が相続した畑の一部を主にささげるときは、あなたはそこにまく種の多少に応じて、値積らなければならぬ。すなわち、大麦一ホメルの種を銀五十シケルに値積らなければならぬ。二七もしその畑をヨベルの年からささげるのであれば、その価はあなたの値積りのとおりになるであらう。二八もしその畑をヨベルの年の後にささげるのであれば、祭司はヨベルの年までに残っている年の数に従ってその金を数え、それをあなたの値積りからさし引かなければならぬ。二九もしまた、その畑をささげる人が、それをあがなおうとするならば、あなたの値積りの金にその五分の一を加えなければならぬ。そうすれば、それは彼のものと決まるであらう。三〇しかし、もしその畑をあがなわず、またそれを他の人に売るならば、それはもはやあがなうことができないであらう。

三その畑は、ヨベルの年になって期限が切れるならば、奉納の畑と同じく、主の聖なる物となり、祭司の所有となるであらう。三もしまた相続した畑の一部でなく、買った畑を主にささげる時は、三祭司は値積りしてヨベルの年までの金を数えなければならぬ。その人はその値積りの金をその日に主にささげて、聖なる物としなければならぬ。二四ヨベルの年にその畑は売り主であるその地の相続者に返るであらう。二五すべてあなたの値積りは聖所のシケルによってしなければならぬ。二十ゲラを一シケルとする。

二六しかし、家畜のういごは、ういごととしてすでに主のものだから、だれもこれをささげてはならない。牛でも羊でも、それは主のものである。二七もし汚れた家畜であるならば、あなたの値積りにその五分の一を加えて、その人はこれをあがなわなければならぬ。もしあがなわないならば、それを値積りに従って売らなければならぬ。

二八ただし、人が自分の持っているものの中から奉納物として主にささげたものは、人であっても、家畜であっても、また相続の畑であっても、いっさいこれを売ってはならない。またあがなってはならない。奉納物はすべて主に属するいと聖なる物である。二九またすべて人のうちから奉納物としてささげられた人は、あがなってはならない。彼は必ず殺されなければならぬ。

三〇 地の十分の一は地の産物であれ、木の実であれ、すべて主のものであつて、主に聖なる物である。三一 もし人がその十分の一をあがなおうとする時は、それにその五分の一を加えなければならぬ。三二 牛または羊の十分の一については、すべて牧者のつえの下を十番目に通るものは、主に聖なる物である。三三 その良い悪いを問うては

ならない。またそれを取り換えてはならない。もし取り換えたならば、それと、その取り換えたものとは、共に聖なる物となるであらう。それをあがなうことはできない。

三〇 이들은 주가, 시나이산에서, 이스라엘의 백성들에게, 모세에게, 명령하여, 그들에게, 계명을 주었다.